

## 地域の底チカラ体験モデル事業

# 各年齢期における子どもの体験活動の実態調査 報告書



平成 24 年 4 月  
香川県教育委員会

表 紙

子どもと親の先進的な体験活動調査研究事業  
委託団体の活動の様子

さぬき市母子愛育会  
「おやこ de おへんろ  
お接待体験」

まんのう町立四条小学校区  
通学合宿実行委員会  
「6泊7日通学合宿」

高松市立太田南小学校区  
太田原南子ども会  
「親子木工教室」

## はじめに

子どもの健やかな成長のためには、生活体験・社会体験・自然体験などの多様な体験や集団遊びが必要です。しかしながら、社会の都市化・高度化などの社会環境の変化によって、子どもたちが公園や空き地で群れて伸び伸びと遊んだり山や川で虫や魚を捕まえたりする姿を見かけなくなっています。また、平成21年度「地域の教育力に関する実態調査報告書」からは、多くの子どもが学校から帰った後、家の中で一人でテレビを見たりゲームをして過ごしているという調査結果が出ています。そのような中、地域住民や団体などが連携・協力しながら地域社会全体で子どもたちの様々な体験活動の促進・充実を図ることが必要になってきています。

香川県教育委員会では、県民の地域の教育活動に対する関心を高め、より積極的な活動への参画を促すとともに、県及び市町教育委員会における今後の支援方策の検討に資するため、平成23年度から地域の底デカラ体験活動モデル事業を展開しております。その一環として、今回の「各年齢期における子どもの体験活動の実態調査」は、県内幼稚園5歳児、小学校3年生、小学校6年生とその保護者を対象として、体験活動や体験の効果について調査し、今後の行政施策に反映させることを目的としております。

この報告書では、その調査結果を御報告いたします。この資料が今後の各市町における生涯学習・社会教育事業の基礎資料として、また、地域教育にかかわる皆様の活動の充実に少しでも役に立てば幸いです。

最後になりましたが、本調査に御協力をいただきました調査対象校の関係者の皆様や調査対象者として回答に協力いただいた幼児・児童や保護者の皆様、並びに監修考察をお願いした香川大学生涯学習教育実践センター清國祐二教授に対し、厚く御礼申しあげます。

平成24年4月

香川県教育委員会生涯学習・文化財課長

炭井宏秋

# 目 次

I	調査概要	・・・・・・・・	1
II	調査結果のポイント	・・・・・・・・	3
III	調査結果		
	[1] 園児・児童の状況	・・・・・・・・	15
	[2] 保護者の状況	・・・・・・・・	22
IV	調査結果の考察	・・・・・・・・	27
V	資料		
	調査票	・・・・・・・・	31

# I 調查概要



# I 調査の概要

## 1 調査の目的

各年齢期における子どもの頃の体験活動に関する意識や現状を調査・分析し、今後の行政施策に反映させるための資料を得るために行うものである。

## 2 調査の概要

(1) 調査対象地域

香川県内全地域

(2) 調査方法

アンケートによる抽出調査とする。

(3) 調査対象者及び対象者数

幼稚園5歳児とその保護者 1,250人

小学校3年生とその保護者 1,074人

小学校6年生とその保護者 1,162人 合計3,486人

(4) 対象者の抽出

- 調査校を、県内全域から各市町単位に、各市町の在籍者数の比率に応じて、地域のバランスを考慮して無作為に抽出する。(小学校 20 校、幼稚園 30 園)
- 調査校においては、調査学年にあわせ、学級単位で調査する。なお、学級の抽出は学校に一任する。

(5) 調査期間

平成23年12月5日～12月9日

調査票は、本課より各市町教育委員会逕送便にて発送し、逕送便にて回収する。

(6) 回収率

回収数: 3,285人

回収率: 94.2%

## 3 調査内容

(1) 子どもの頃の各年齢期における体験

自然体験、動植物とのかかわり、友だちとの遊び、地域活動、家族行事、家事手伝い

(国立青少年教育振興機構で平成 22 年度に実施した「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」の調査項目を使用)

(2) 子どもの頃の各年齢期における体験

道具の使い方

(3) 体験の力

自尊感情、共生感、意欲・関心、規範意識、人間関係能力、職業意識、文化的作法・教養

(国立青少年教育振興機構で平成 22 年度に実施した「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」の調査項目を使用)

(4) 体験活動の希望調査





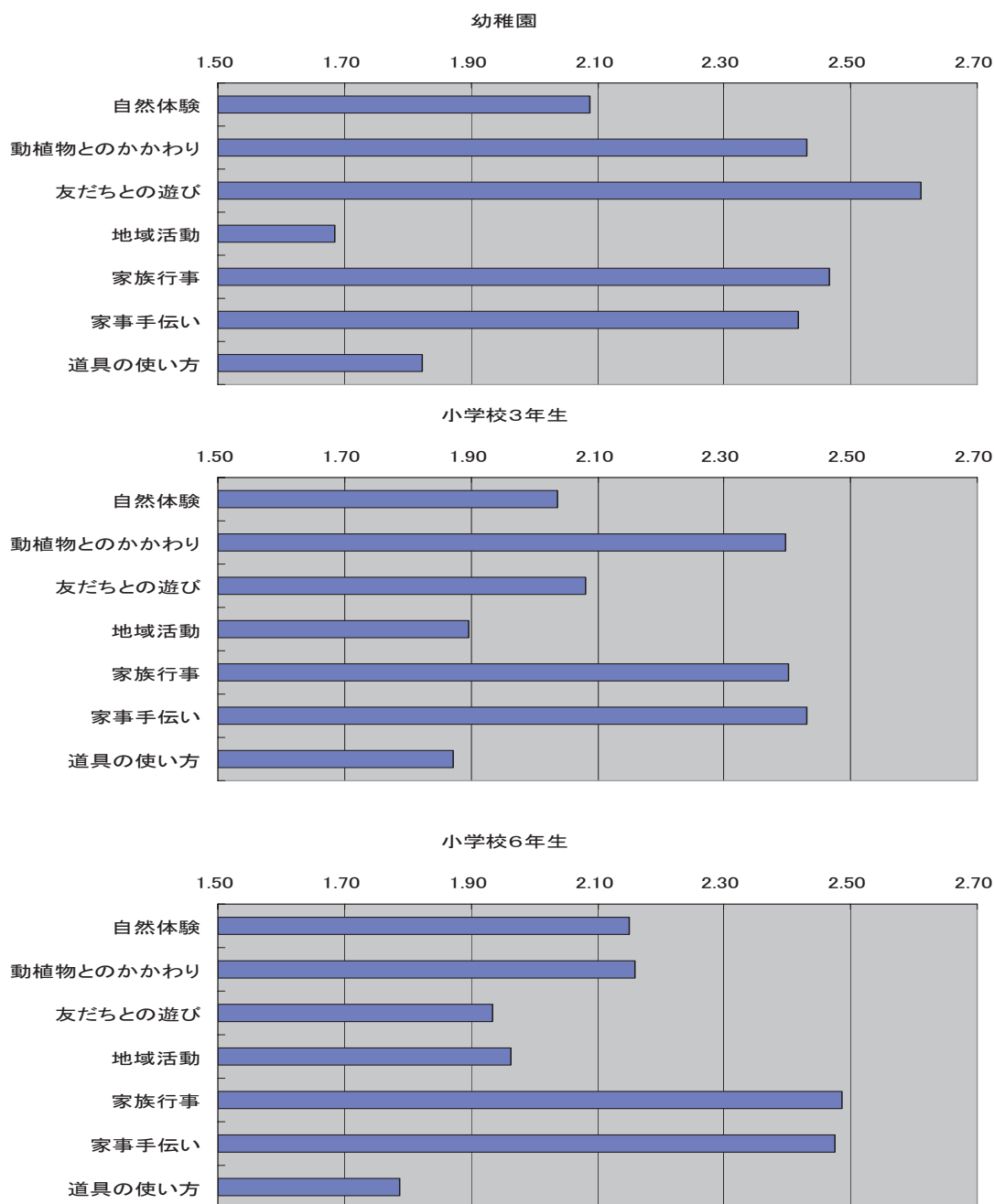
## Ⅱ 調査結果のポイント



## 調査研究結果のポイント 1

**各年齢期における体験活動の平均値の比較では、どの年齢期も「家族行事」や「家事手伝い」が高く、「地域活動」や「道具の使い方」が低い。**

各年齢期における体験活動の平均値の比較では、幼稚園児は「動植物とのかかわり」「友だちとの遊び」「家族行事」「家事手伝い」が高く、小学校3年生は「動植物とのかかわり」「家族行事」「家事手伝い」が高く、小学校6年生は「家族行事」「家事手伝い」が高いが、「地域活動」「道具の使い方」はどの年齢期も低い。



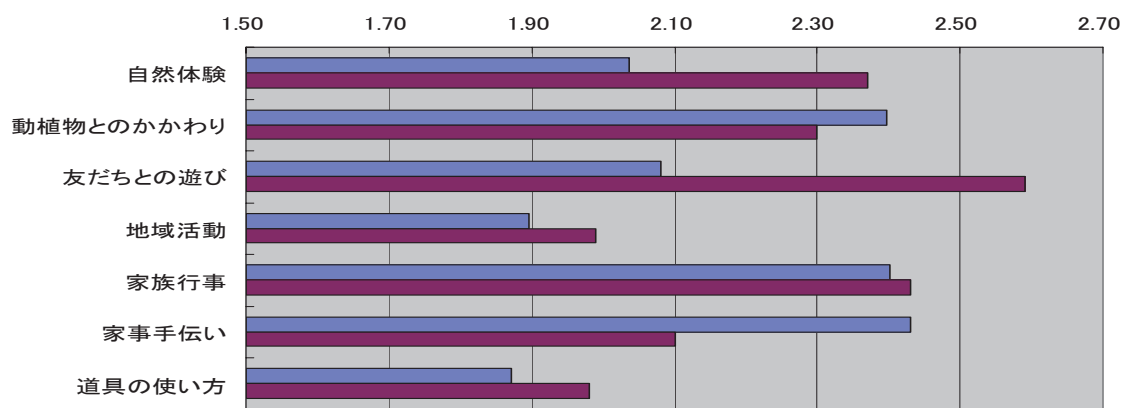
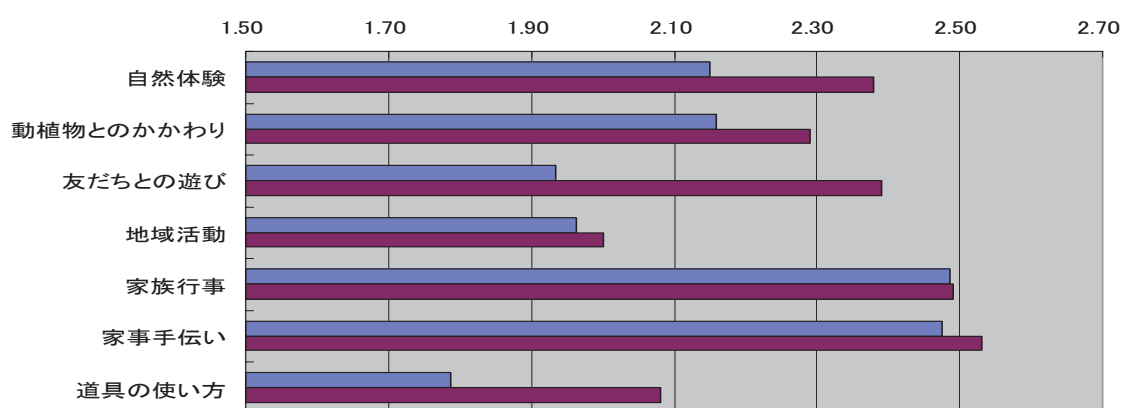
※体験活動の平均値について

体験活動の各項目の回答を「何度もある」3点、「少しある」2点、「ほとんどない」1点と得点化して平均値を算出した。(以下同じ)

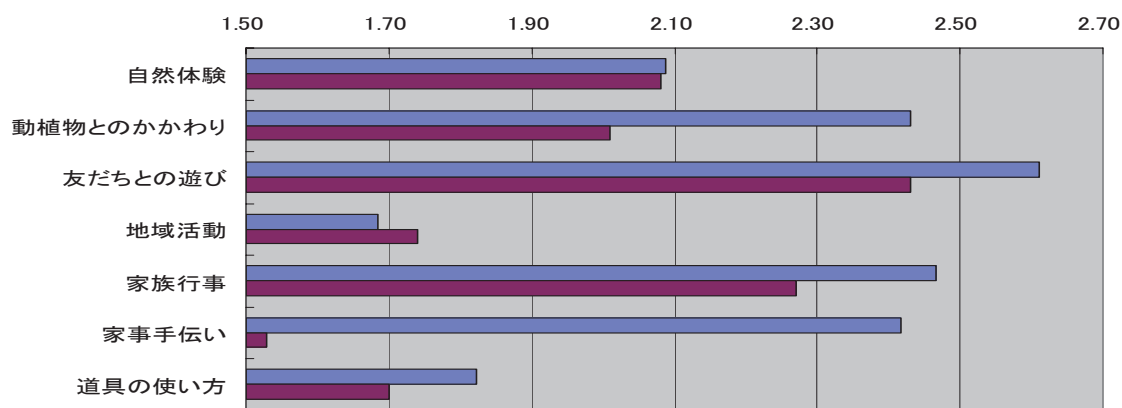
## 調査研究結果のポイント 2

**子どもと保護者の体験活動の比較をすると、小学校3・6年生では、子どもの方が保護者の子ども時代に比べて体験活動が少ない傾向にある。**

幼稚園、小学校3年生、小学校6年生、保護者の体験活動の調査結果を用い、各年齢期の子どもとその保護者の子ども時代のそれぞれ体験活動のカテゴリごとの平均値を比べたものが下図である。小学校6年生と保護者（小学校高学年の頃）の比較では、すべてのカテゴリにおいて子どもの方が保護者の子ども時代に比べて体験活動が少なく、小学校3年生と保護者（小学校低学年の頃）の比較では、5つのカテゴリにおいて子どもの方が保護者の子ども時代に比べて体験活動が少ない。



■ 小学校3年生 ■ 保護者(小学校低学年の頃)



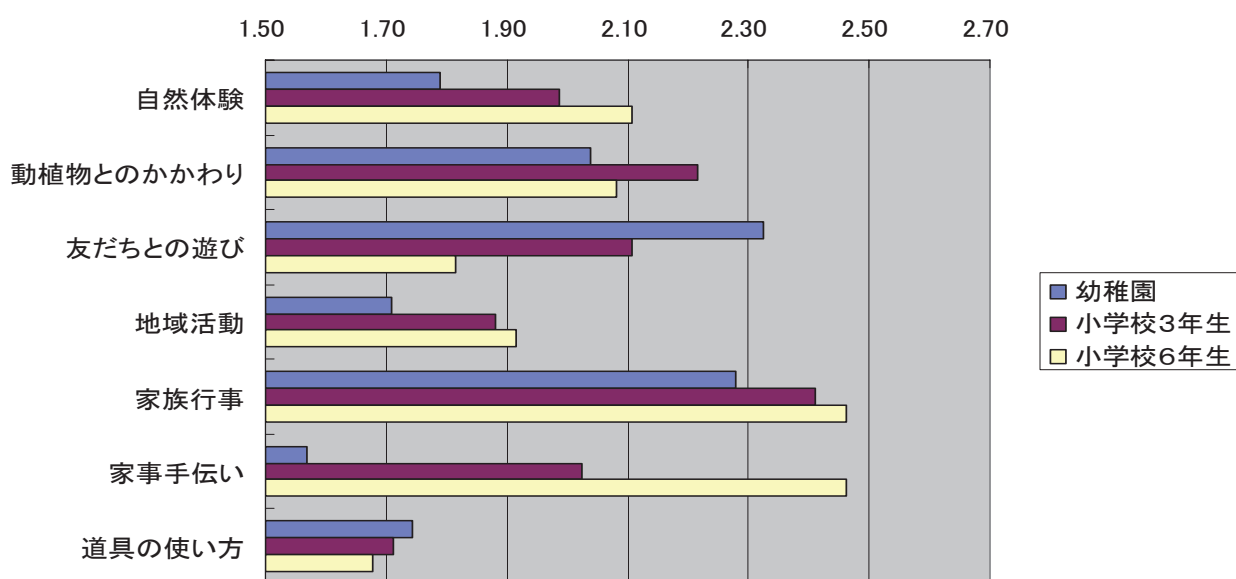
■ 幼稚園 ■ 保護者(小学校に通う前)

## 調査研究結果のポイント3

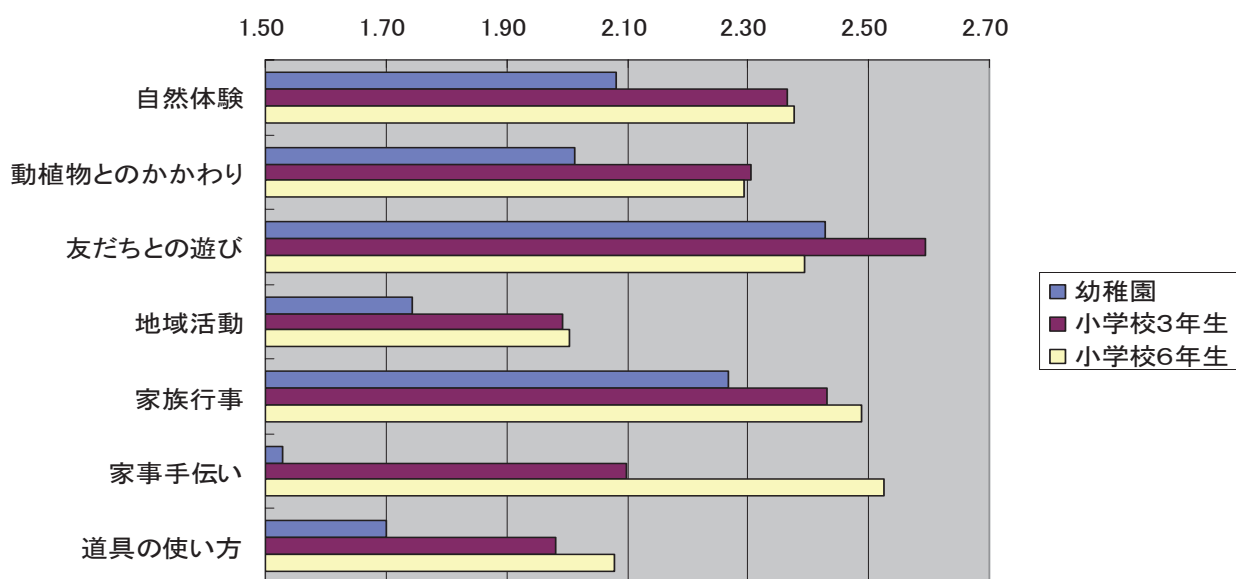
**小学校6年生と保護者との各年齢期の体験活動の推移の比較では、年齢が上がるにつれて体験活動の平均値は高くなっている傾向がある。**

小学校6年生と保護者の体験活動の調査結果を用い、体験活動のカテゴリごとの平均値を各年齢期で比較したのが下図である。小学校6年生の推移では、「自然体験」「地域活動」「家族行事」「家事手伝い」は年齢が上がるにつれて体験活動の平均値も高くなっている。保護者の推移では「自然体験」「地域活動」「家族行事」「家事手伝い」「道具の使い方」は年齢が上がるにつれて体験活動の平均値も高くなっている。

### [小学校6年生の推移]



### [保護者の推移]



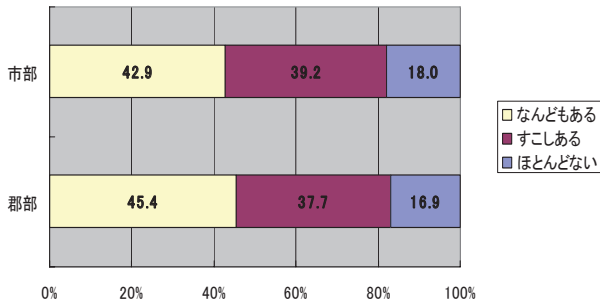
調査研究結果のポイント 4

**子どもの体験活動については、居住地の種類による違いはほとんど見られない。（国とほぼ同じ傾向にある）**

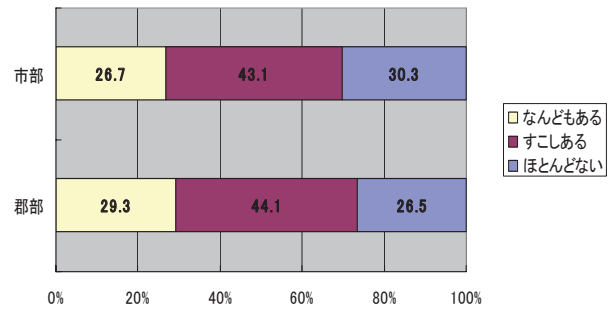
[幼稚園児]

[小学校3年生]

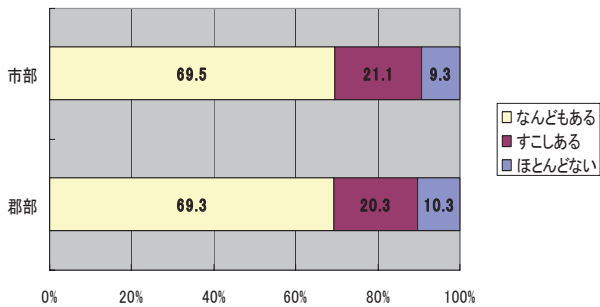
海や川で泳いだこと



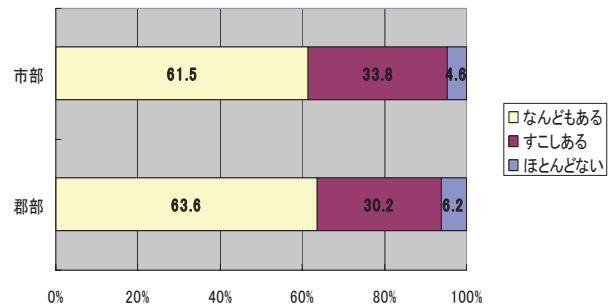
海や川で貝を探ったり、魚を釣ったりしたこと



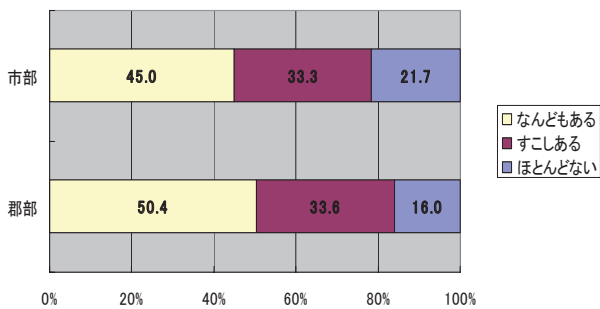
チョウやトンボ、バッタなどの昆虫をつかまえたこと



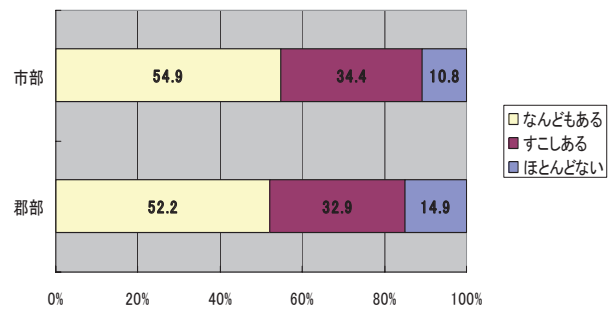
花を育てたこと



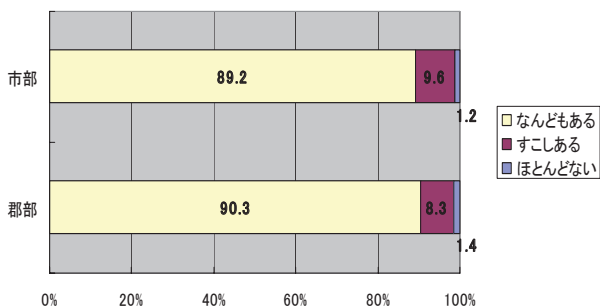
祭りに参加したこと



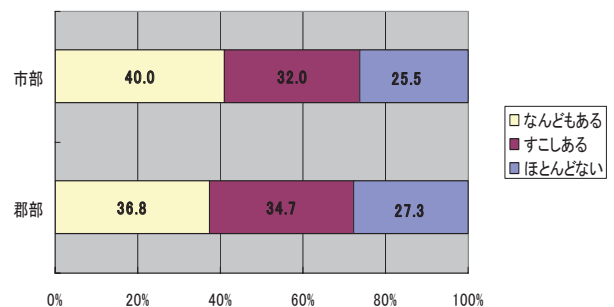
ナイフや包丁で、果物の皮をむいたり、野菜を切ったこと



スコップやシャベルを使って砂遊びをしたこと

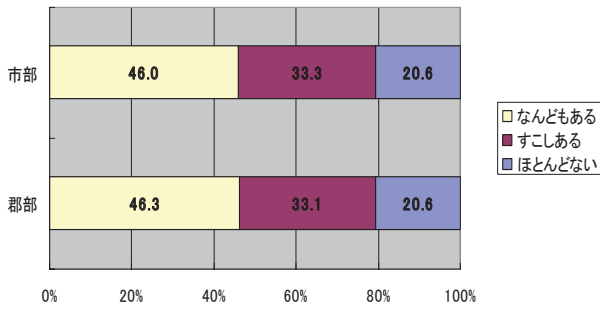


かなづちでくぎをうったこと



[小学校6年生]

海や川で泳いだこと



※居住区分については、以下のとおりとした。

市 部: 合併以前の

- 高松市
- 丸亀市
- 坂出市
- 善通寺市
- 観音寺市

を所在地とする小学校

郡 部: 合併以前の

- 大 川 郡 (引田町、白鳥町、大内町、大川町、寒川町、長尾町、志度町、津田町)

- 小 豆 郡 (土庄町、内海町、池田町)

- 木 田 郡 (牟礼町、三木町、庵治町)

- 香 川 郡 (塩江町、香南町、直島町)

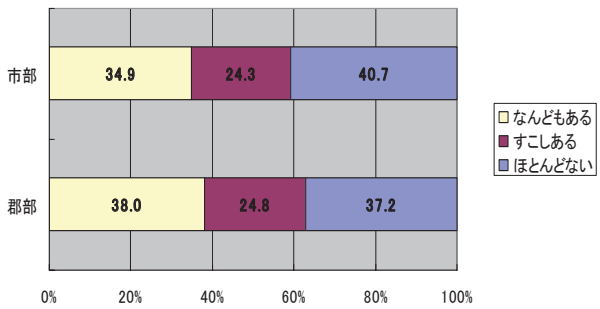
- 綾 歌 郡 (綾上町、綾南町、国分寺町、綾歌町、飯山町、宇多津町)

- 仲多度郡 (満濃町、琴南町、仲南町、琴平町、多度津町)

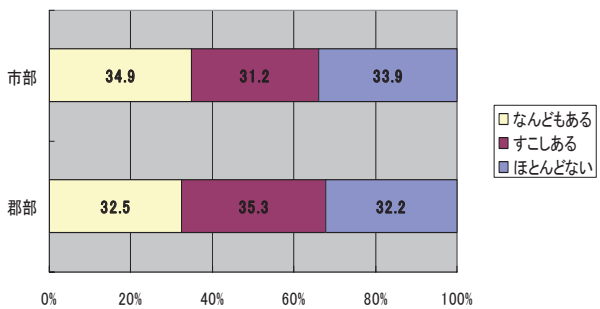
- 三 豊 郡 (大野原町、豊浜町、山本町、財田町、豊中町、高瀬町、三野町、仁尾町、詫間町)

を所在地とする小学校

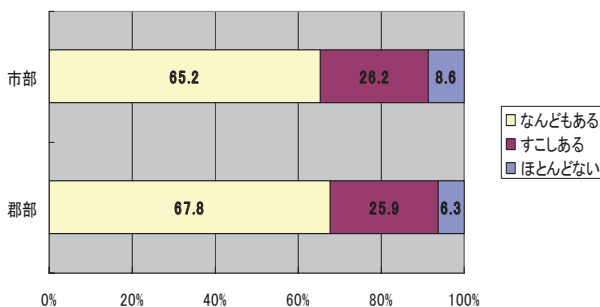
チョウやトンボ、バッタなどの昆虫をつかまえたこと



地域の清掃に参加したこと



ナイフや包丁で、果物の皮をむいたり、野菜を切ったこと



※国についての調査結果は、平成22年10月に国立青少年教育振興機構が発行した「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」報告書に記載されている。(以下同じ)

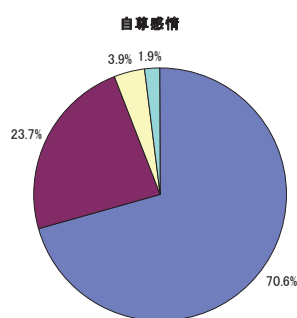
## 調査研究結果のポイント5

「体験の力」を各カテゴリごとに、各年齢期において比べると、全般的に「あてはまる」と回答する割合が高いが、人間関係能力は、どの年齢期もやや低い傾向にある。

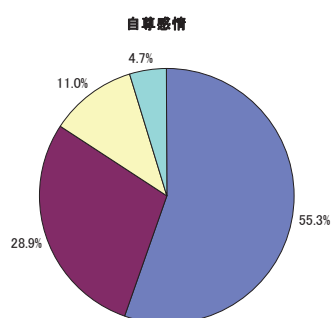
※『あてはまる』とは、「とてもあてはまる」「ややあてはまる」を合わせた割合

幼稚園、小学校3年生、小学校6年生の体験の力の調査結果を用い、それぞれ体験の力のカテゴリごとに回答の割合を示したのが下図である。

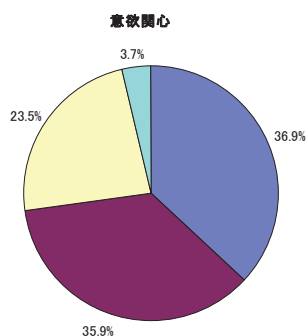
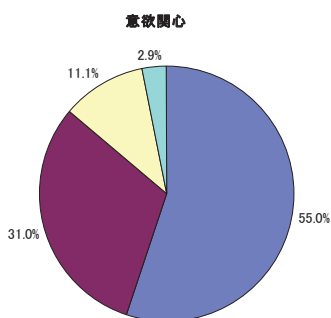
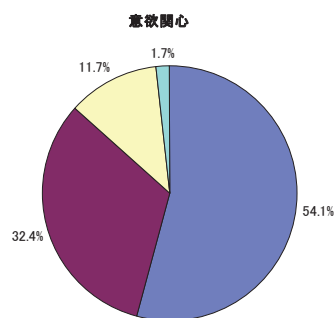
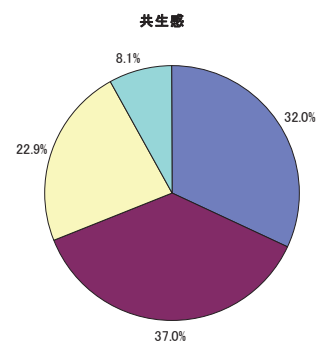
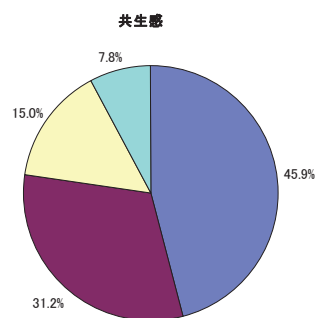
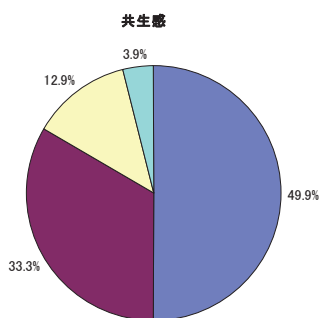
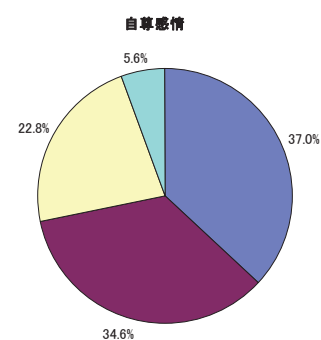
幼稚園



小学校3年生



小学校6年生



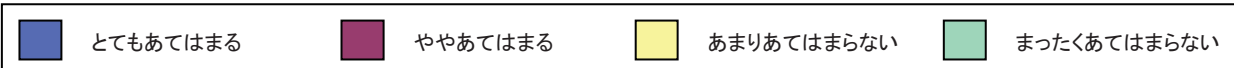
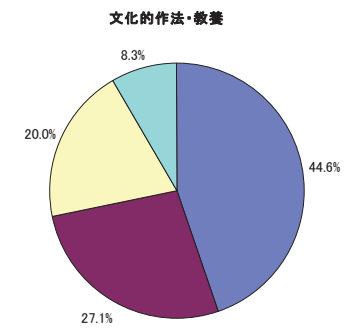
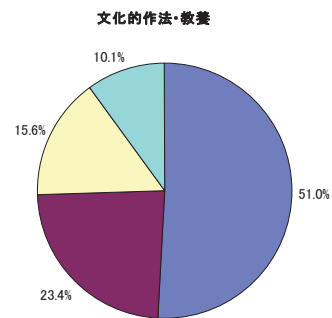
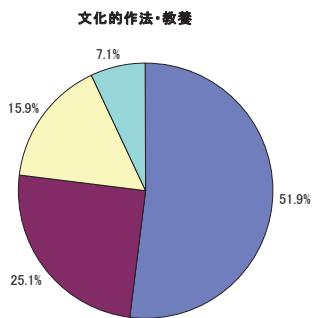
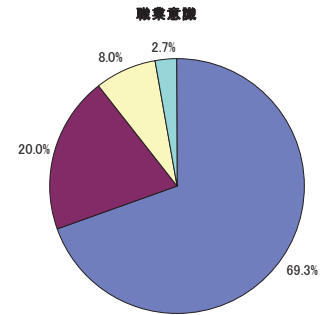
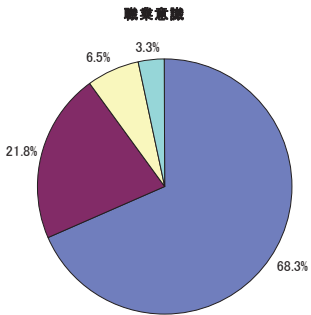
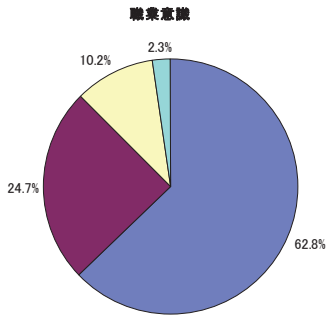
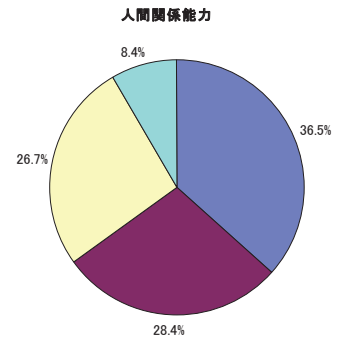
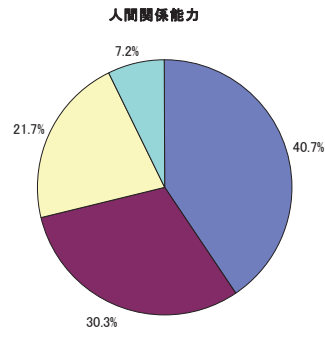
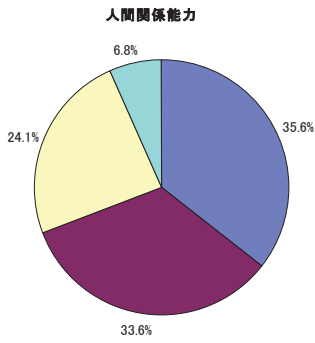
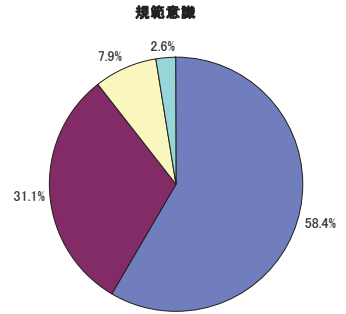
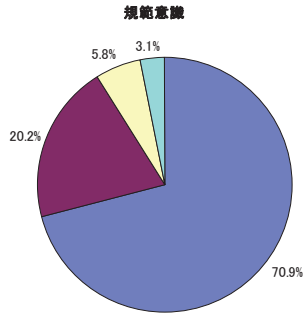
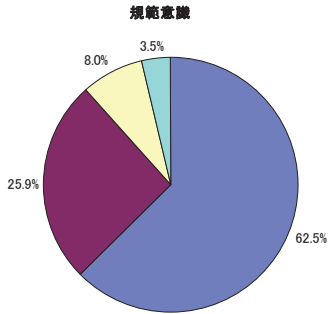
とてもあてはまる
  ややあてはまる
  あまりあてはまらない
  まったくあてはまらない



幼稚園

小学校3年生

小学校6年生

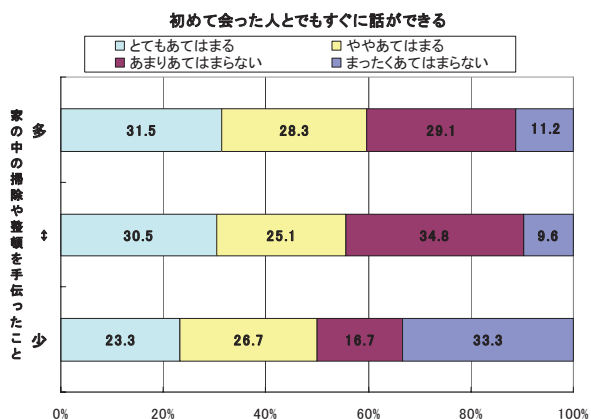
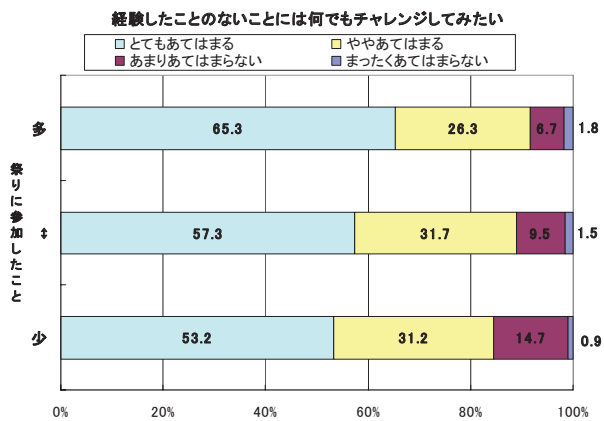
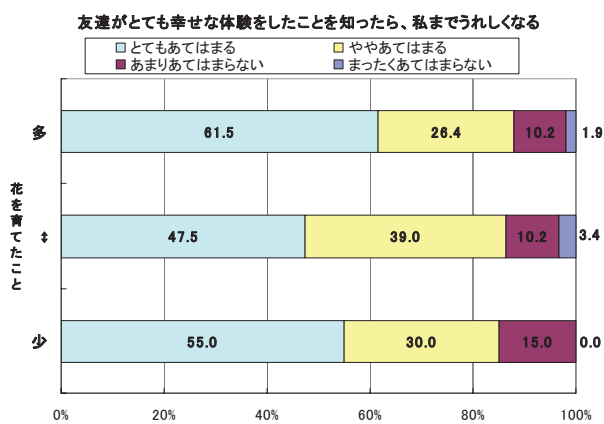


## 調査研究結果のポイント 6

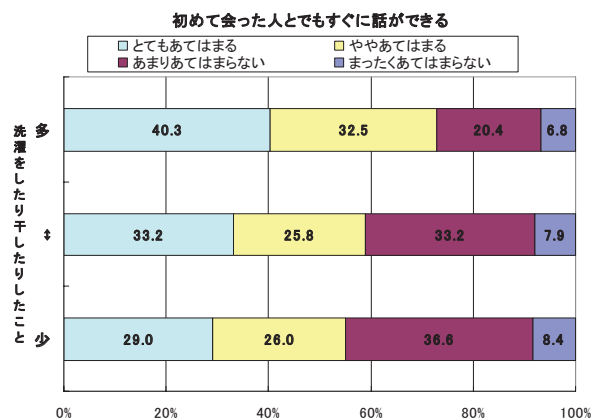
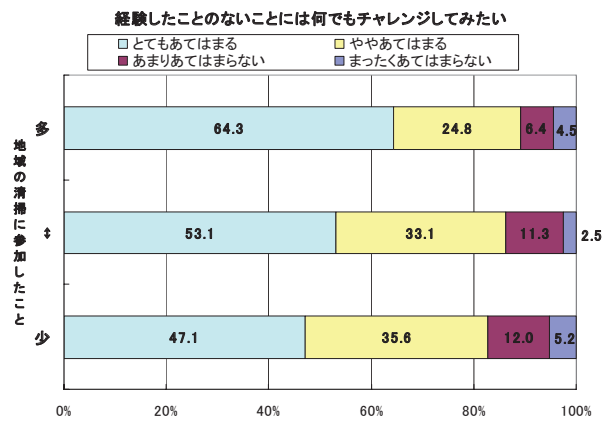
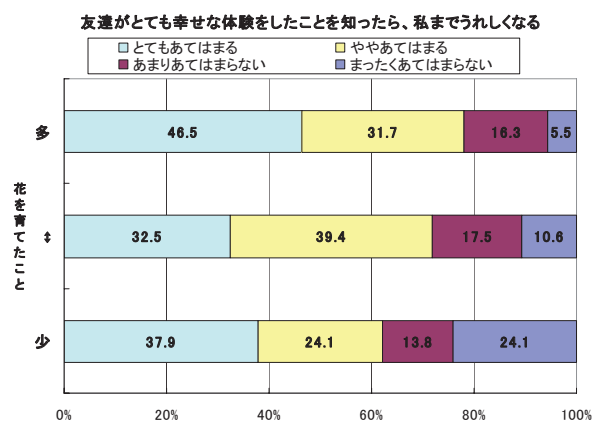
### 子どもの頃の体験が多いほど、思いやり・やる気・人間関係能力等の資質・能力が高い。（国とほぼ同じ傾向にある）

幼稚園児、小学校3年生、6年生の体験活動と体験の力の調査結果を用いクロス集計を行ったところ、幼少期から小学校高学年までに「動植物とのかかわり」「地域活動」「家事手伝い」等の体験が豊富な子どもほど「友だちがとても幸せな経験をしたことを知ったら、私までうれしくなる」といった「共生感」、「経験したことの無いことには何でもチャレンジしてみたい」といった「意欲・関心」、「初めて会った人とでもすぐに話ができる」といった「人間関係能力」が高い。

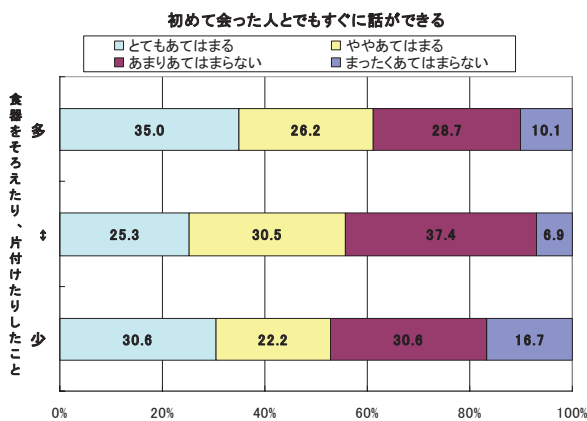
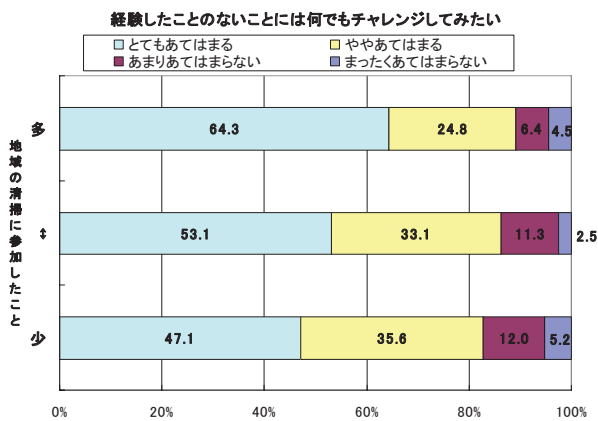
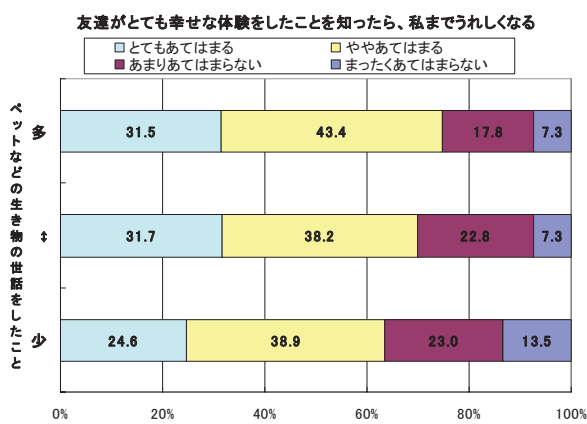
#### [幼稚園児]



#### [小学校3年生]



## [小学校6年生]



## [共生感]

- 休みの日には自然の中で過ごすことが好きである。
- 動物園や水族館などに行くのが好きである。
- 悲しい体験をした人の話を聞くとつらくなる。
- 友だちがとても幸せな体験をしたことを知ったら私までうれしくなる。
- 人から無視されている人のことが心配になる。

## [意欲・関心]

- もっと深く学んでみたいことがある。
- なんでも最後までやりとげたい。
- 経験したことのないことには何でもチャレンジしてみたい。
- 分からないことはそのままにしないで調べたい。
- いろいろな国に行ってみたい。

## [人間関係能力]

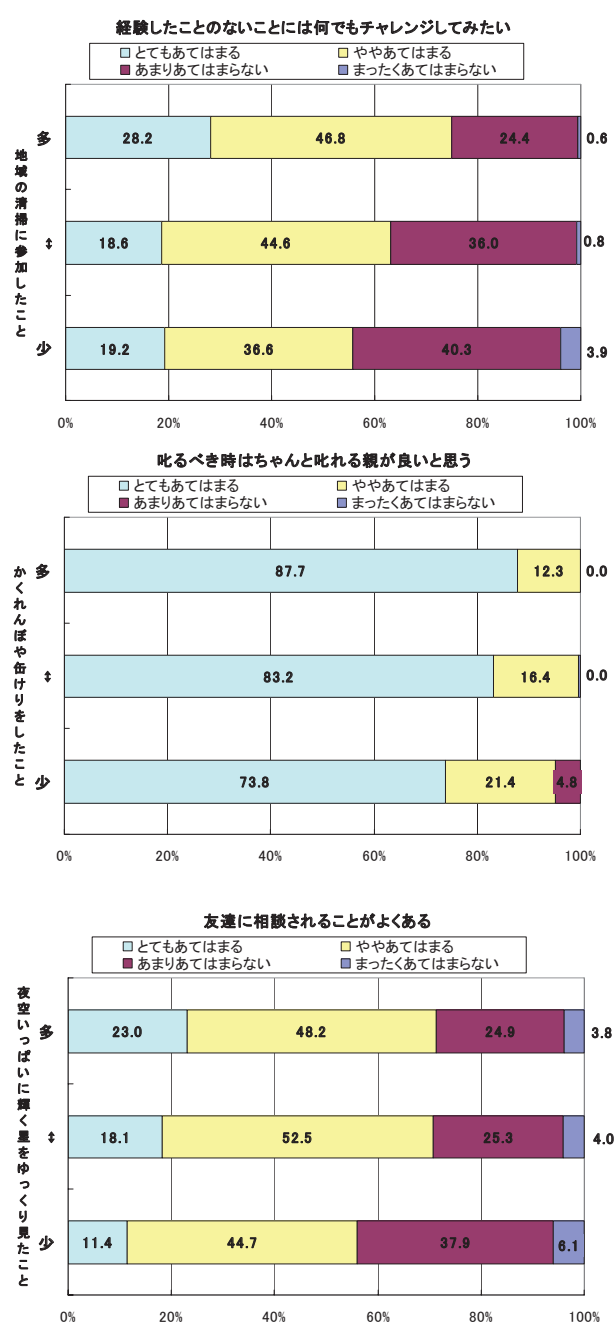
- 人前でも緊張せずに自己紹介ができる。
- けんかをした友だちを仲直りさせることができる。
- 近所の人に挨拶ができる。
- 初めて会った人とでもすぐに話ができる。
- 友だちに相談されることがよくある。

## 調査研究結果のポイント 7

**子どもの頃の体験が豊富な大人ほど、やる気や生きがいを持っている人が多く、モラルや人間関係能力が高い人が多い。(国とほぼ同じ傾向にある)**

保護者全体の体験活動と体験の力の調査結果を用い、クロス集計した結果、子どもの頃(小学校高学年の頃)の「自然体験」や「友だちとの遊び」「地域活動」等の体験が豊富な人ほど「経験したことのないことには何でもチャレンジしてみたい」といった「意欲・関心」や、「叱るべき時はちゃんと叱れる親が良いと思う」といった「規範意識」、「友だちに相談されることがよくある」といった「人間関係能力」が高い。

### [保護者全体]



### [意欲・関心]

- もっと深く学んでみたいことがある。
- なんでも最後までやりとげたい。
- 経験したことのないことには何でもチャレンジしてみたい。
- 分からないことはそのままにしないで調べたい。
- いろいろな国に行ってみたい。

### [規範意識]

- 叱るべき時はちゃんと叱れる親が良いと思う。
- 交通規則など社会のルールは守るべきだと思う。
- 電車やバスの中で化粧や整髪をしても良いと思う。
- 電車やバスに乗ったとき、お年寄りや身体の不自由な人には席をゆずろうと思う。
- 他人をいじめている人がいると、腹が立つ。

### [人間関係能力]

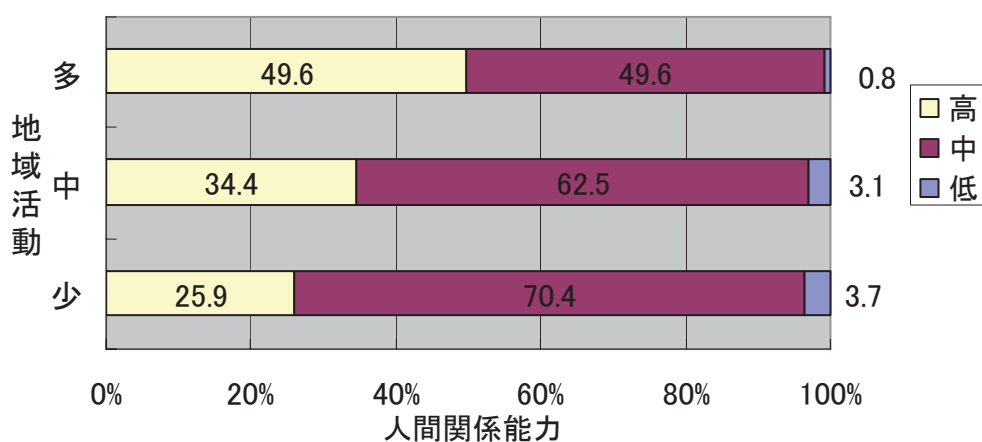
- 人前でも緊張せずに自己紹介ができる。
- けんかをした友だちを仲直りさせることができる。
- 近所の人に挨拶ができる。
- 初めて会った人とでもすぐに話ができる。
- 友だちに相談されることがよくある。

## 調査研究結果のポイント 8

**子どもの頃の地域活動の体験が多い保護者ほど、人間関係能力が高い。**  
**(国とほぼ同じ傾向にある)**

保護者の子どもの頃（小学校高学年の頃）の地域活動の5設問の得点（1設問1～3点×5設問＝0～15点）と体験の力の人間関係能力の5設問の得点（1設問1～4点×5設問＝0～20点）を算出し、「低」「中」「高」の三群に分類して、クロス集計したものが下図である。

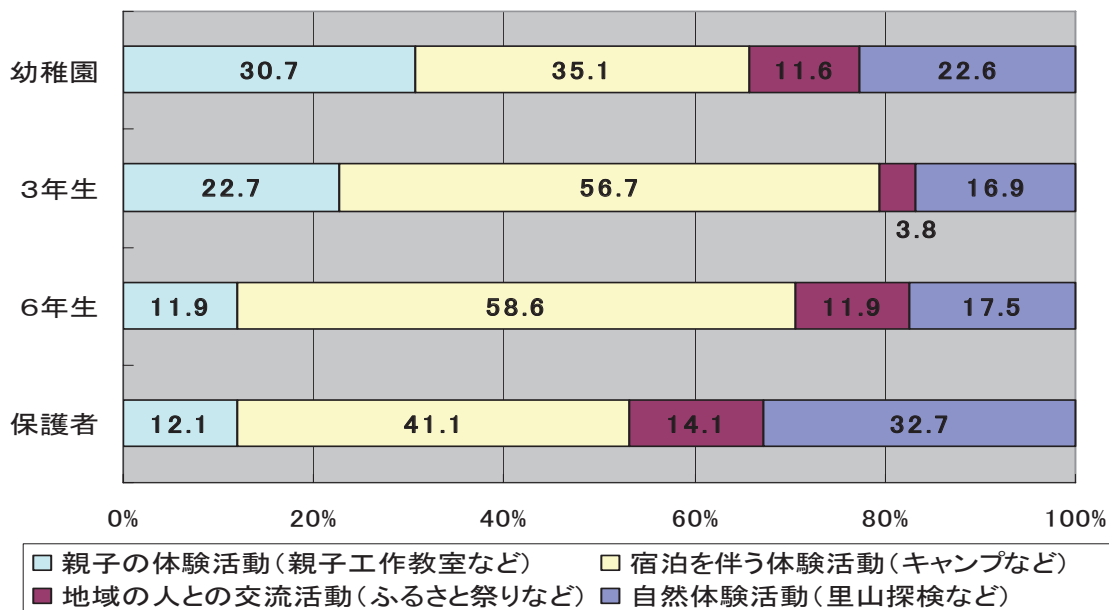
子どもの頃の地域活動と現在の人間関係能力との関係



## 調査研究結果のポイント⑨

**体験活動の希望調査では、子どもがしてみたい体験活動も、保護者がさせてみたい体験活動も宿泊を伴う体験活動が一番多い。**

幼稚園、小学校3年生、小学校6年生、保護者の体験活動の希望調査結果を用い、それぞれの年齢期ごとに回答の割合を示したのが下図である。



### Ⅲ 調 査 結 果



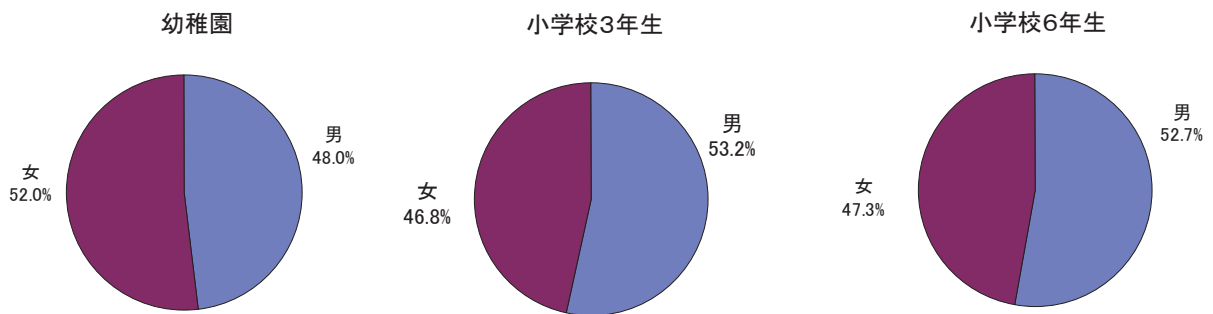


### Ⅲ 調査結果

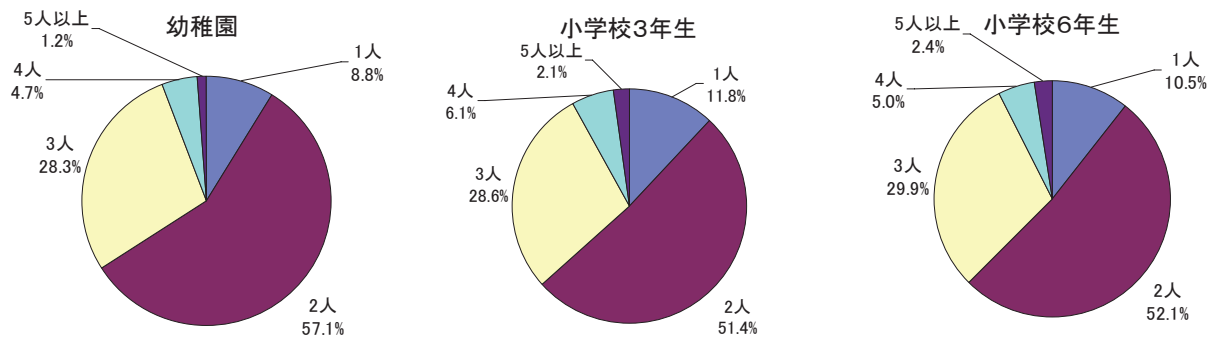
#### [ 1 ] 園児・児童の状況

##### 1. 属性

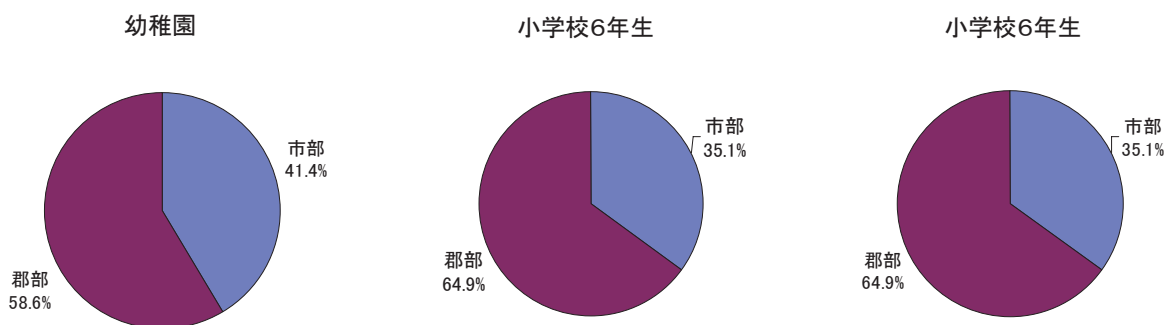
##### 1-1 性別



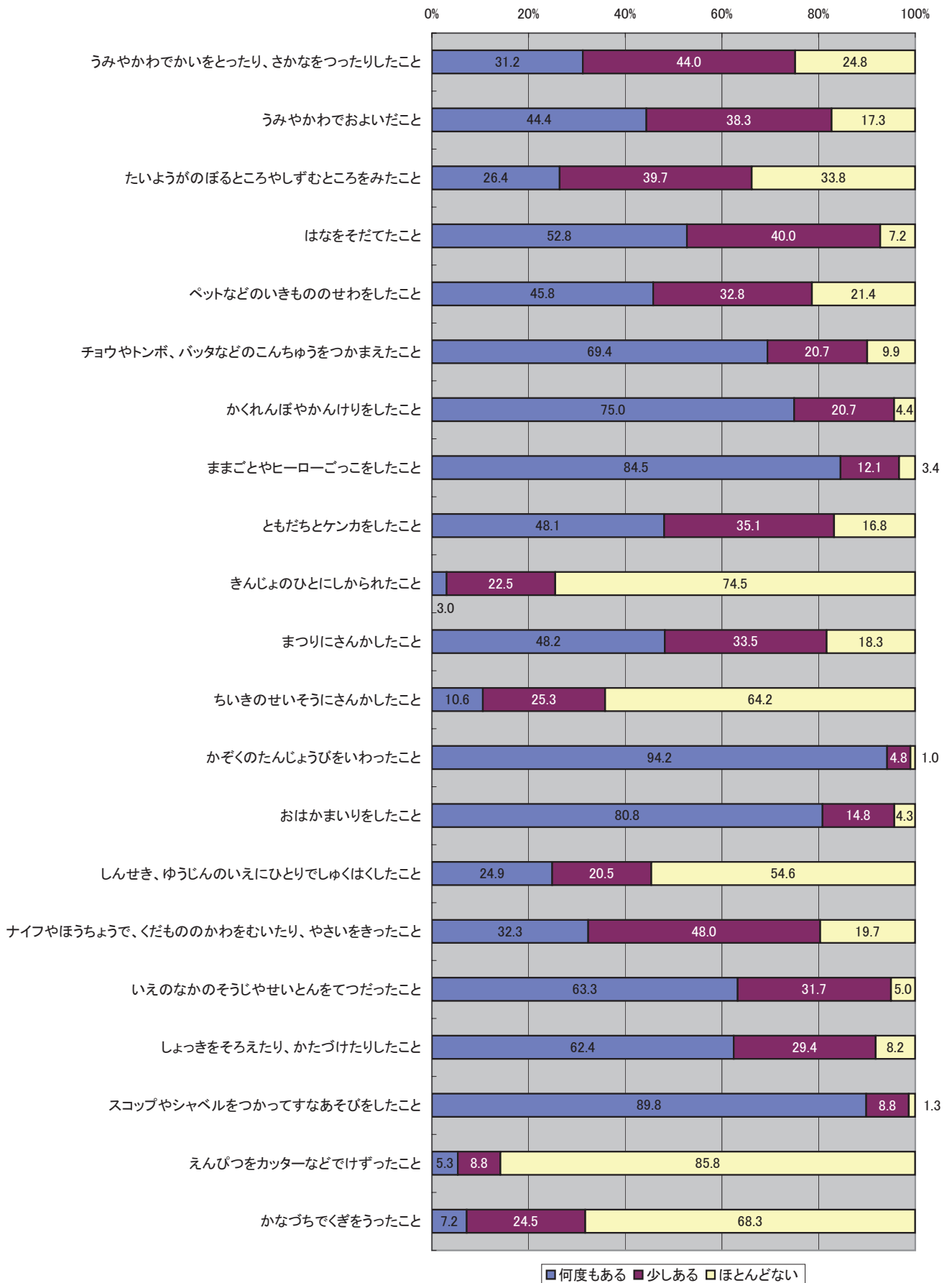
##### 1-2 兄妹数



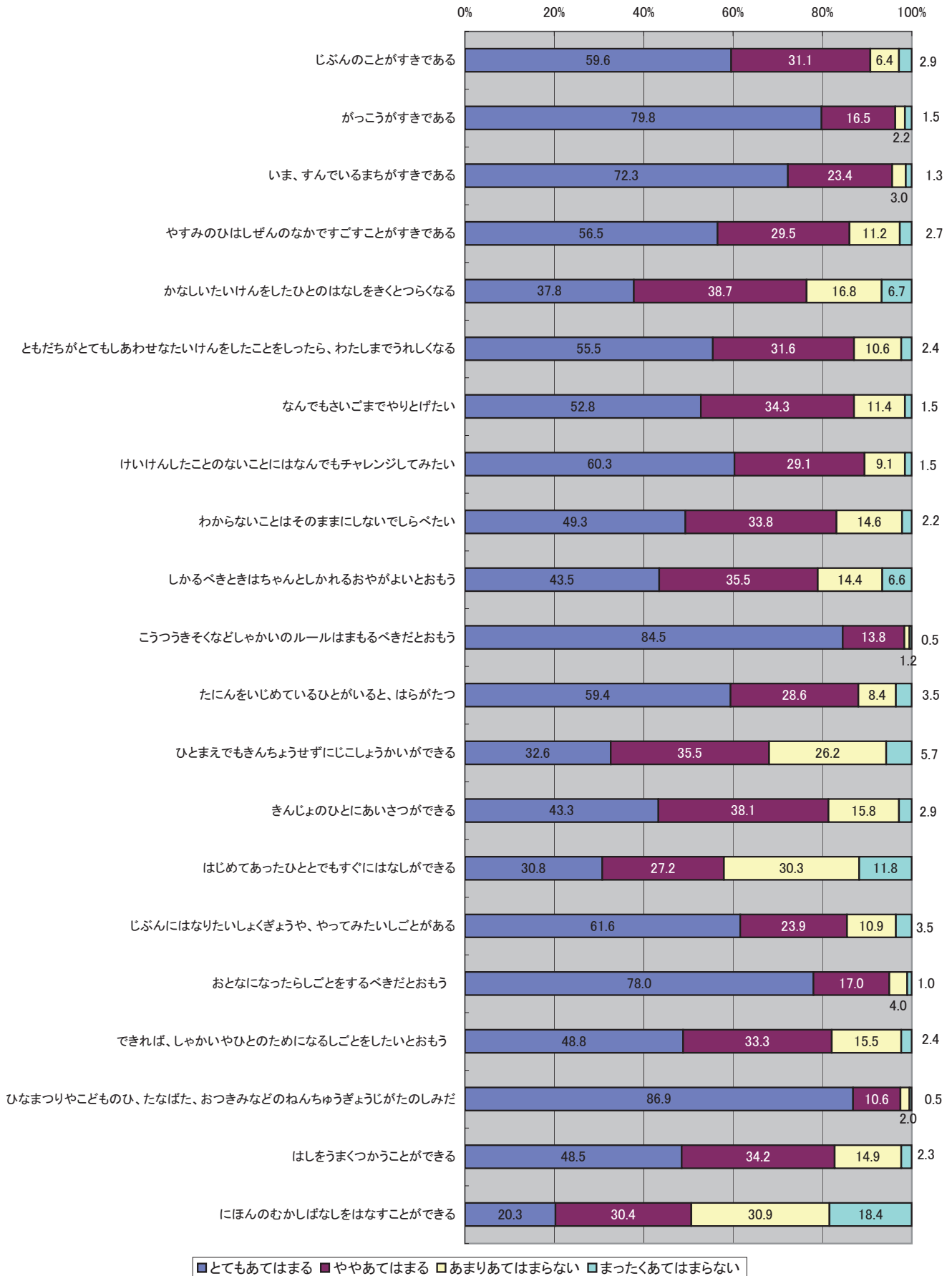
##### 1-3 居住地域



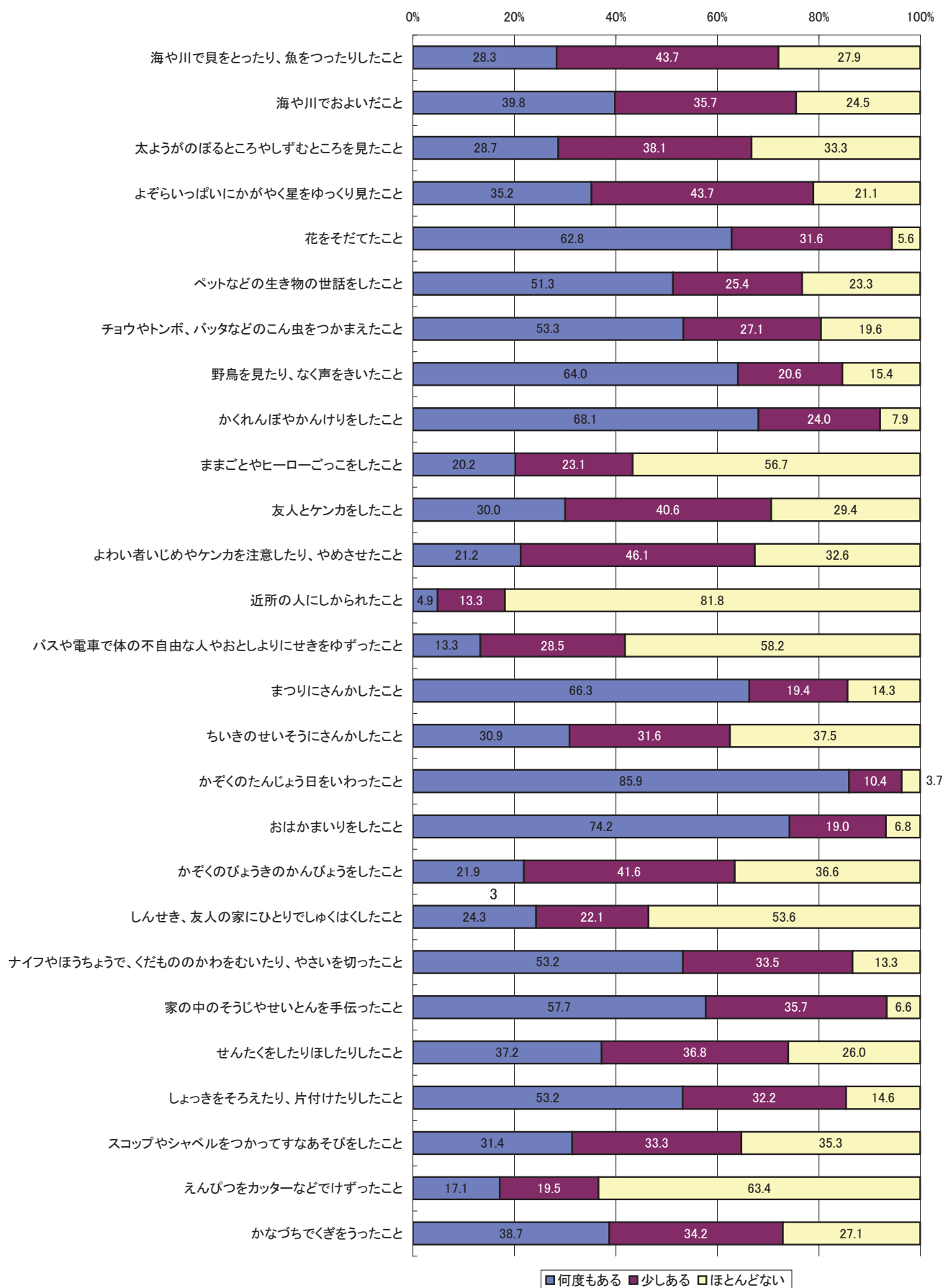
## 幼稚園児の体験活動



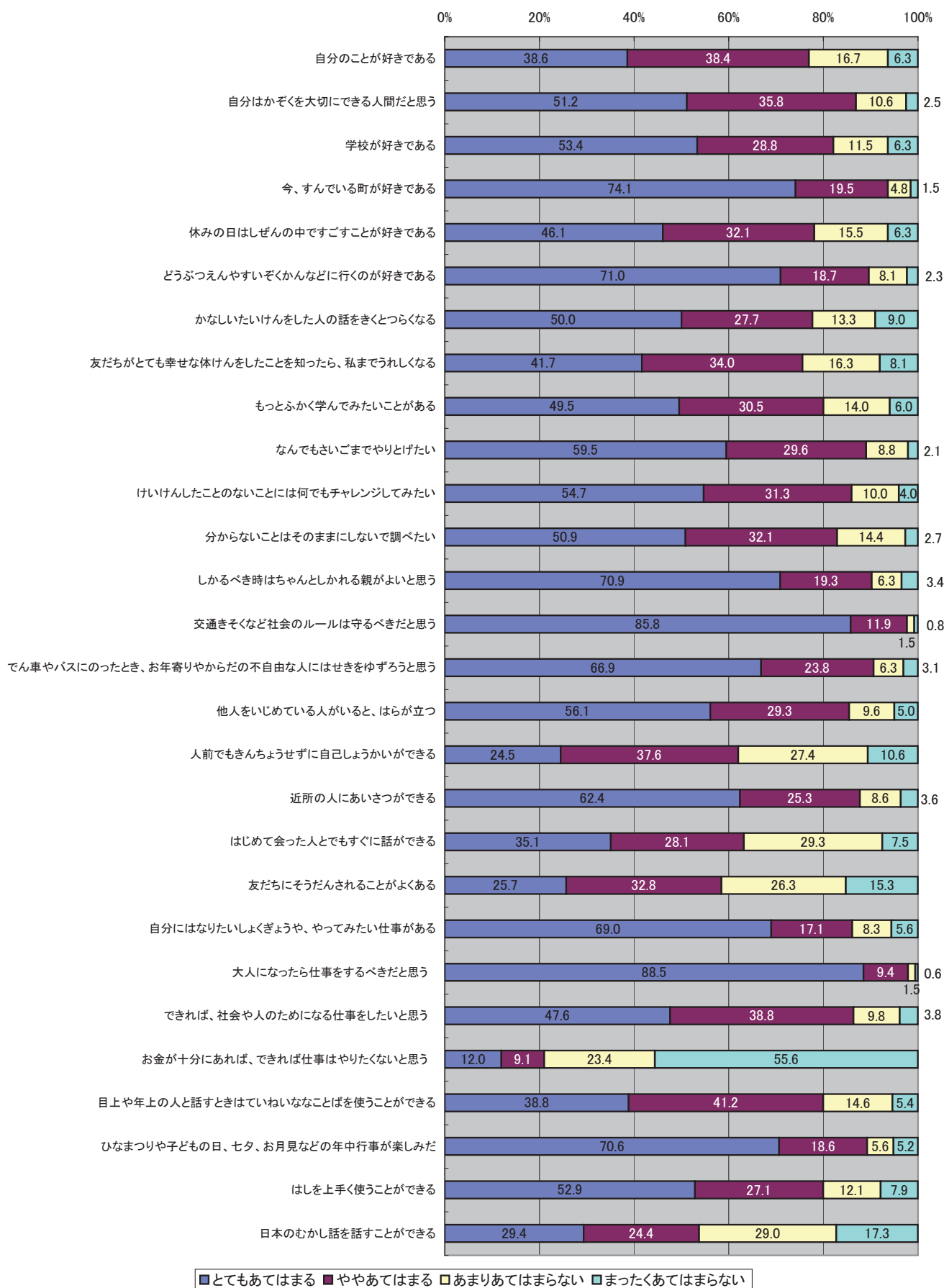
## 幼稚園児の体験の力



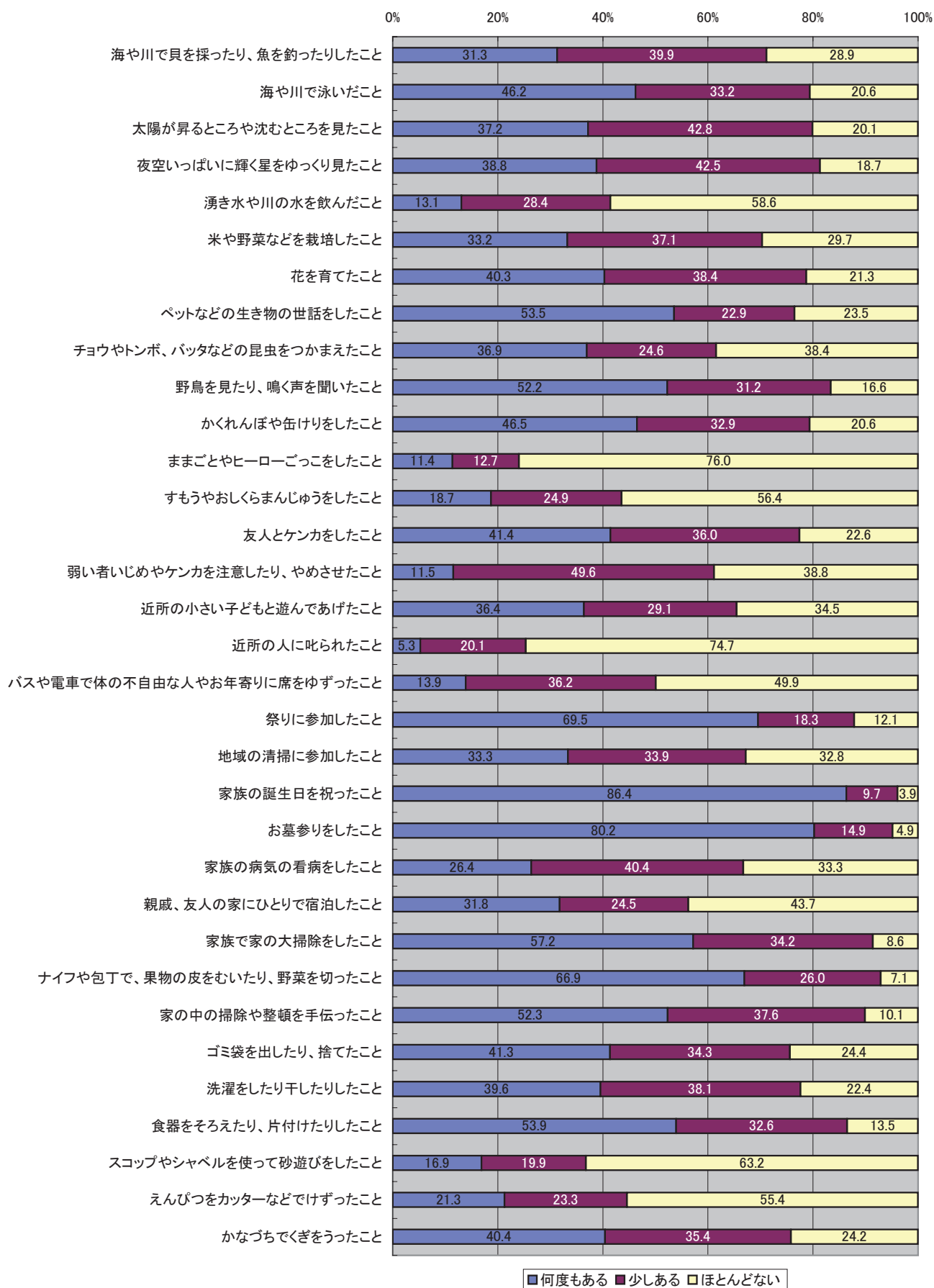
## 小学校3年生の体験活動



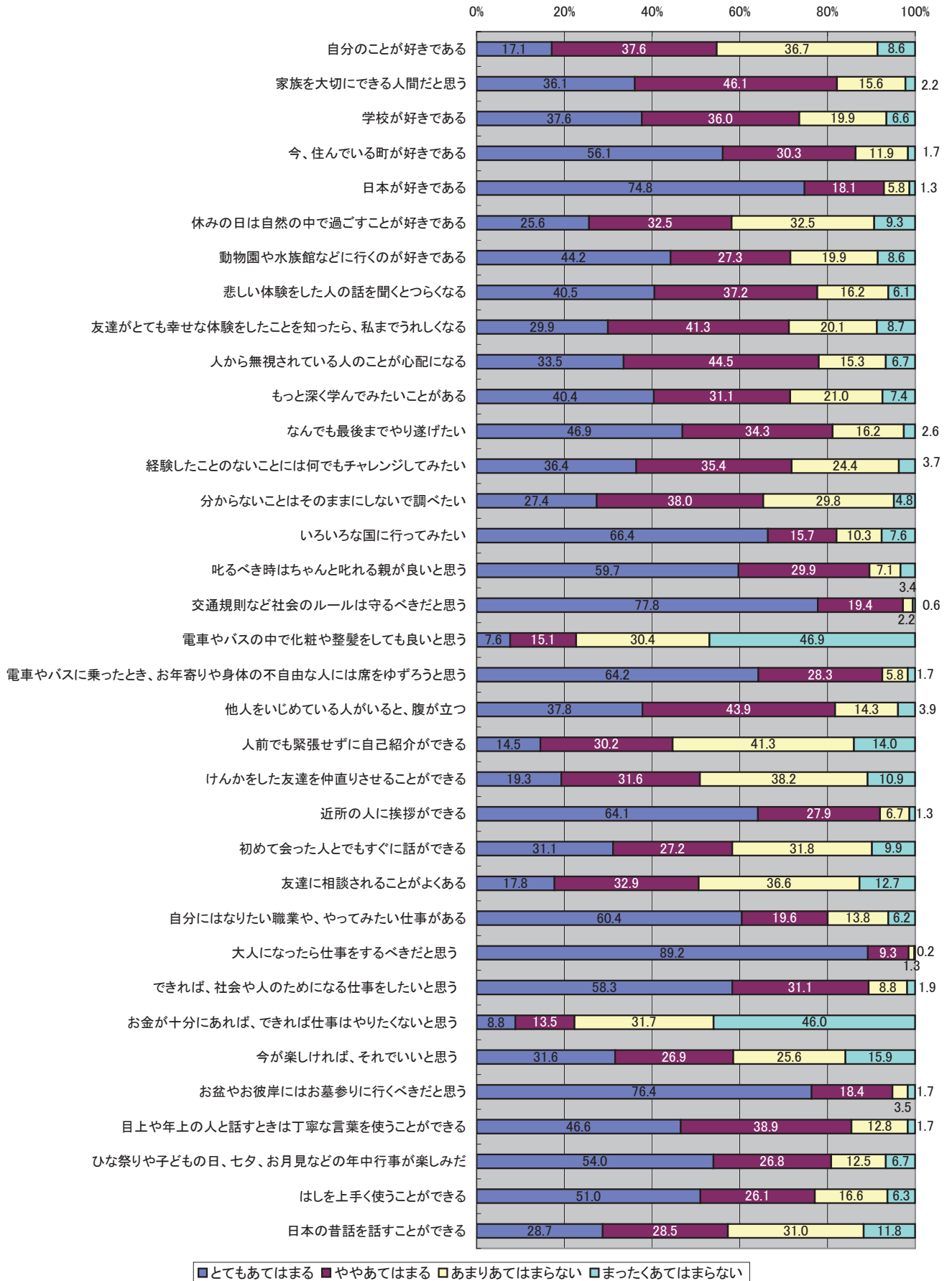
## 小学校3年生の体験の力



## 小学校6年生の体験活動



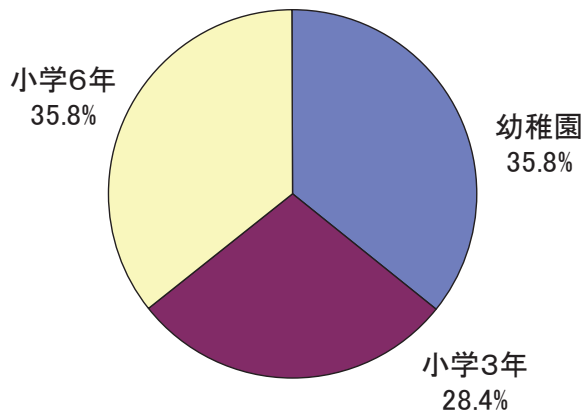
# 小学校6年生の体験の力



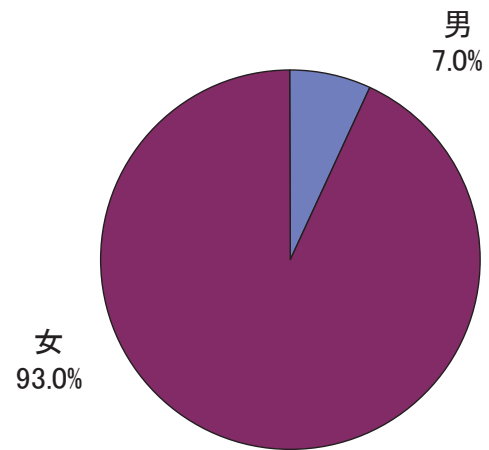
## [ 2 ] 保護者の状況

### 1. 属性

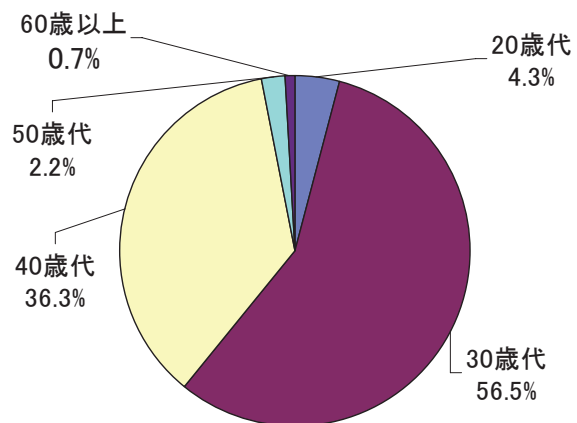
1-1 子どもの学年



1-2 保護者(回答者)の性別

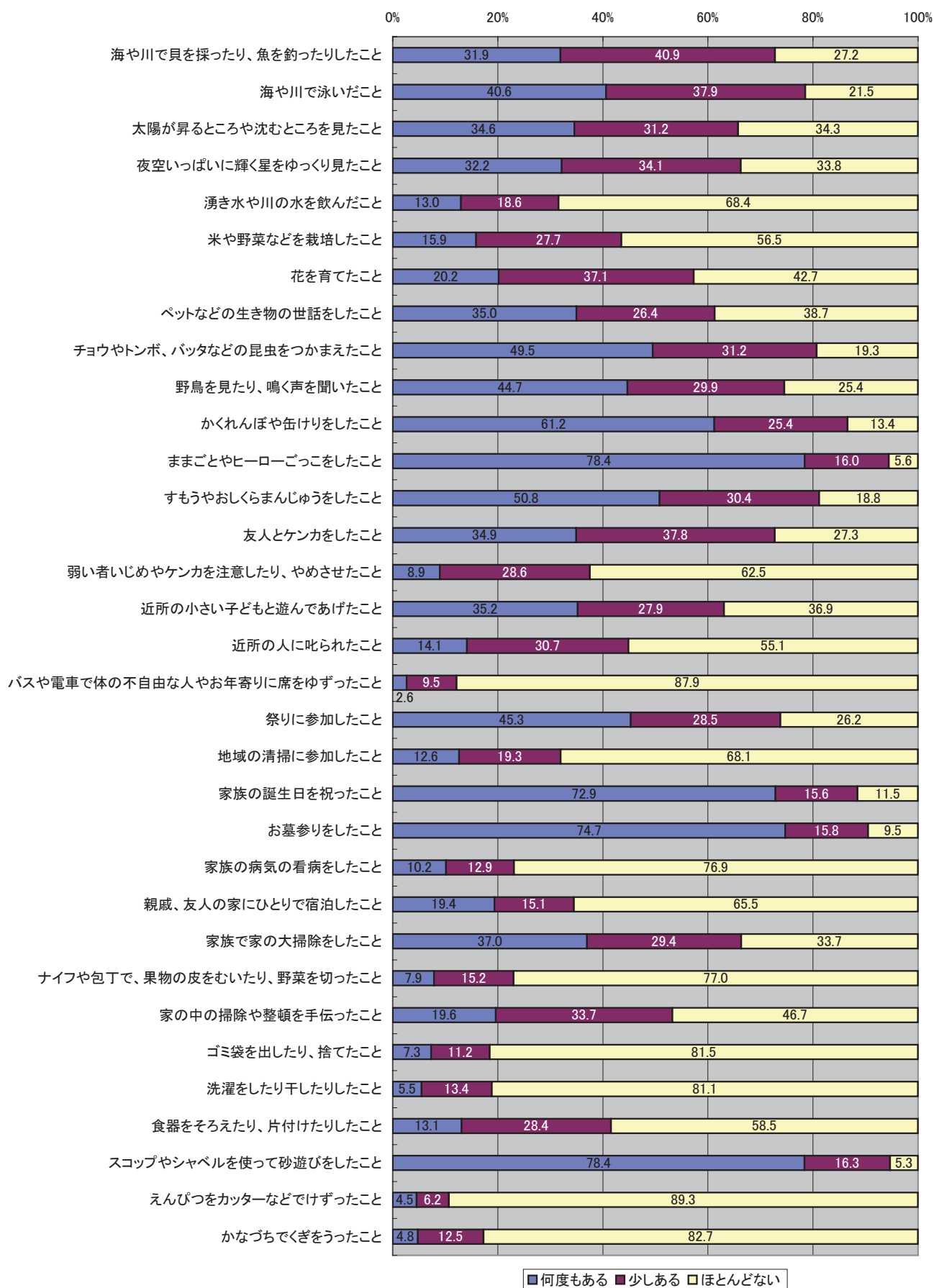


1-3 保護者(回答者)年齢

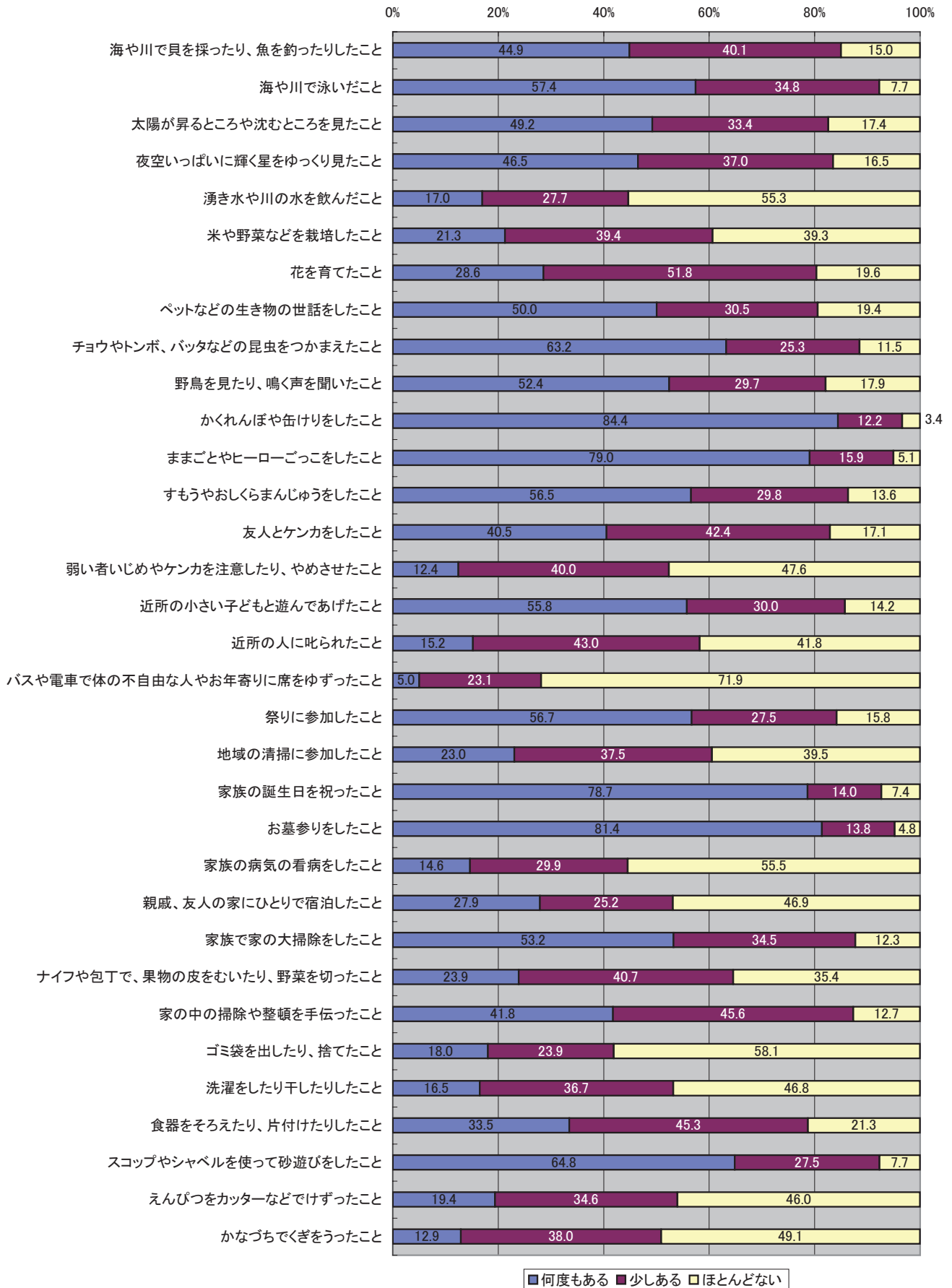




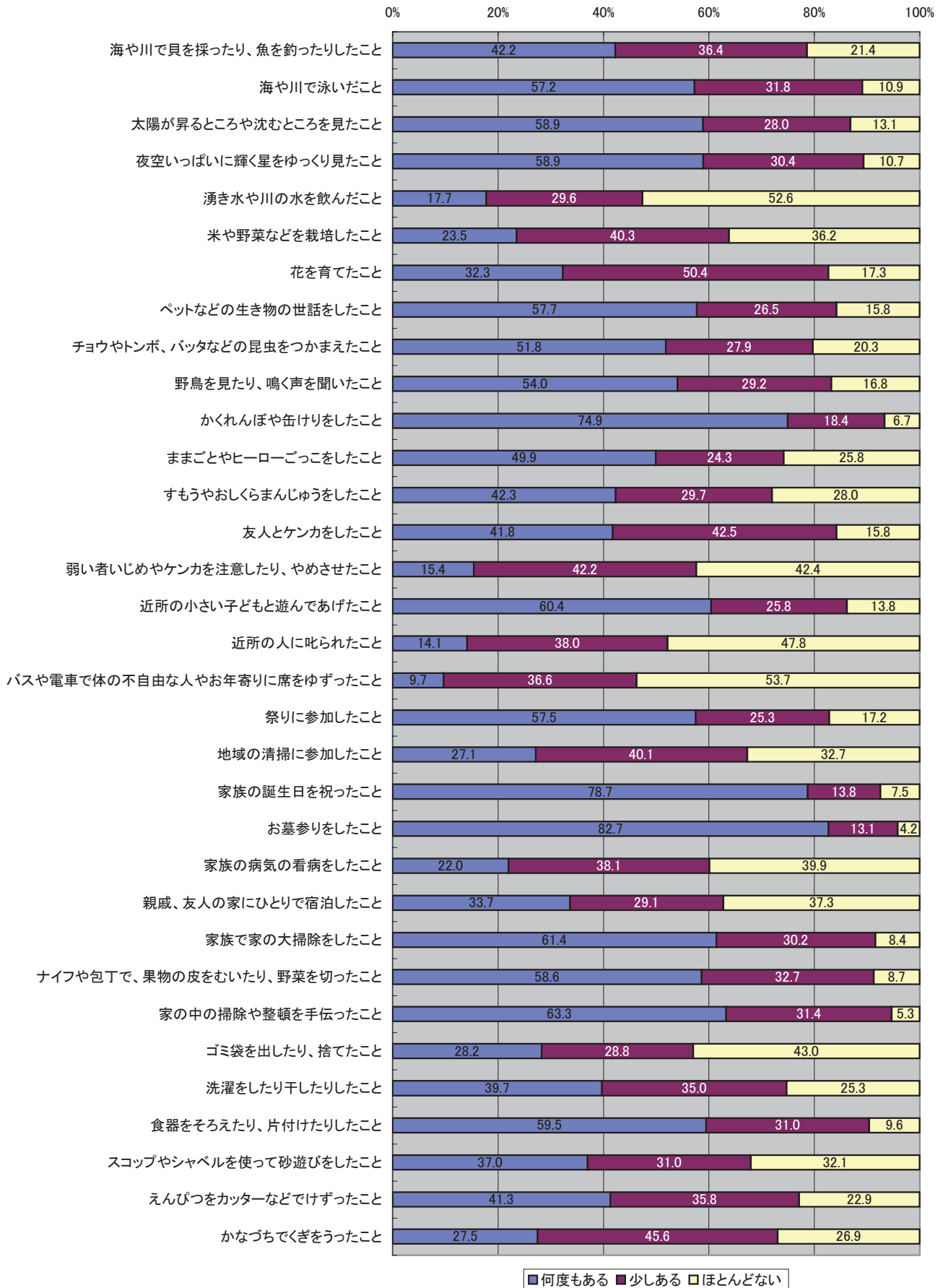
## 保護者の幼稚園や保育所の頃の体験活動



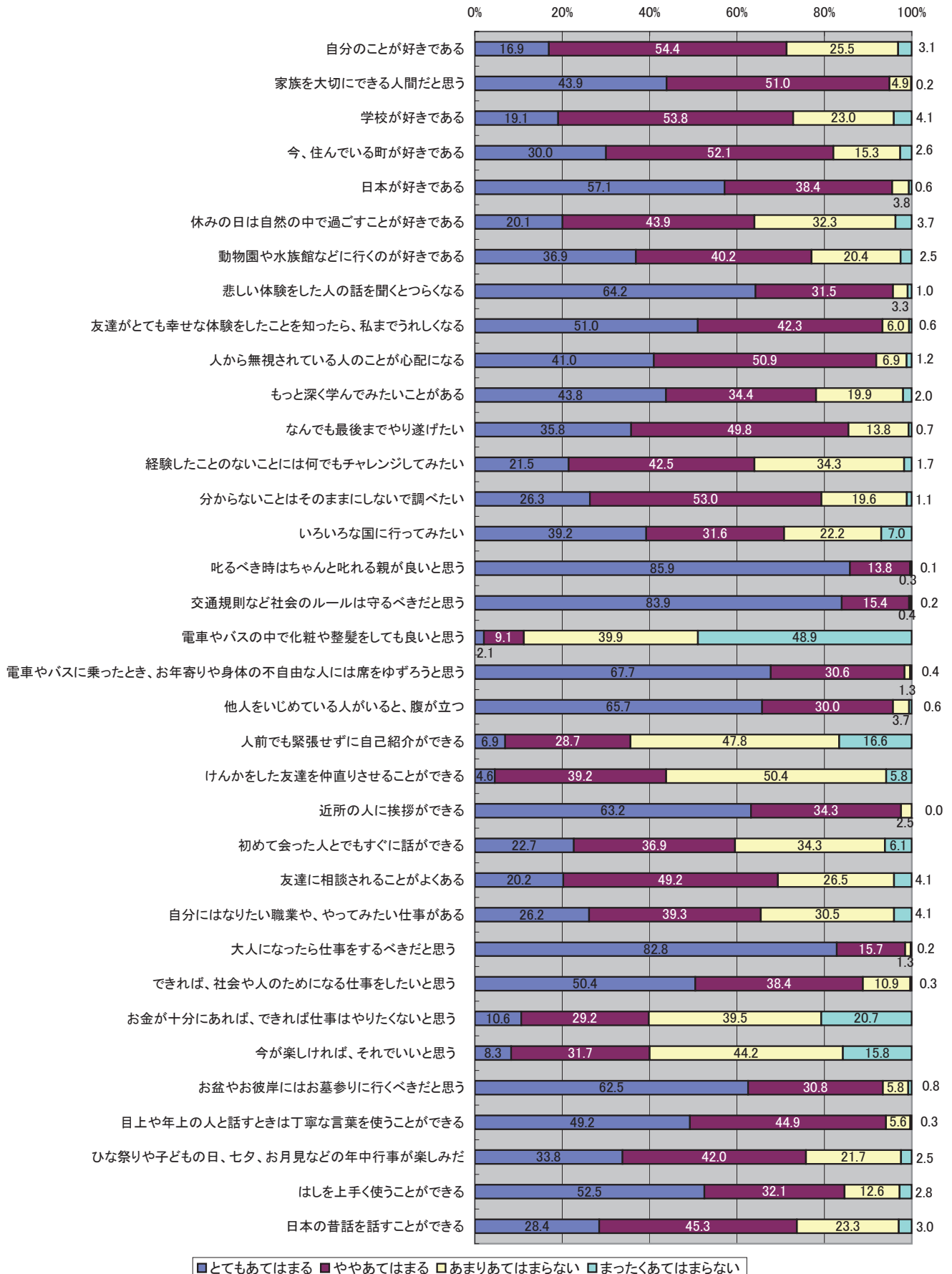
## 保護者の小学校低学年の頃の体験活動



## 保護者の小学校高学年の頃の体験活動



## 保護者の体験の力



## IV 調査結果の考察



## IV 調査結果の考察

香川大学生涯学習教育研究センター  
センター長・教授 清國祐二

### <子どもを取り巻く環境と体験活動>

子ども時代の体験活動が、その後の子どもの人間形成や社会生活に一定の影響を与えると言われ始めて久しい。都市化による影響で子どもを取り巻く環境が急激に変化し始めた1970年代後半から、青年の家や少年自然の家等での宿泊研修や長期キャンプ等への取り組みが見られるようになった。当時からすでに、青少年の自然体験や生活体験の不足が社会的に認識されていた証拠である。

それ以降、子どもや若者をめぐる社会問題は子どもの体験活動と結びつけられて論じられるようになる。子ども時代の体験と日本人として身につけておくべき諸能力に関連があることは誰しも予想していたが、最初の大規模な調査とその報告は、1999年の生涯学習審議会答申「生活体験・自然体験が日本の子どもの心をはぐくむー『青少年の[生きる力]をはぐくむ地域社会の環境の充実方策についてー』」に遡る。

そこでは、①生活体験が豊富な子どもほど、②お手伝いをする子どもほど、③自然体験が豊富な子どもほど、道徳観・正義感が強いという。体験やお手伝いが道徳観・正義感と明確な相関があるとの結論が報告された。感覚的な断定でなく、調査結果として数字で示されたことによって、社会に大きなインパクトを与えることとなった。

その後、文部科学省の委託や補助事業となる、「放課後子ども教室」や「放課後子どもプラン」、「早寝早起き朝ごはん運動」（生活リズムや生活習慣の定着）、「学校支援地域本部事業」と、子どもの日常生活の環境の中で生活体験や社会体験などを活発化する取り組みが政策的に展開された。

### <調査結果のポイント>

今回の調査によって、全国調査から見られる傾向や過去の香川県の傾向と同様の結果が得られる一方で、香川県の子どもや保護者に見られる新たな問題点や課題が浮き彫りになった。子どもや保護者、家族や家庭は、いい意味でも悪い意味でも社会の影響をいち早く受けて、その変容した姿が私たちの前に現れる。それらも含めて、調査結果の概要のポイントを読み解いていこう。

#### ①子どもの体験活動

調査結果から、子どもの体験活動が「家族行事」や「家事手伝い」で高い平均値を示している一方で、「地域活動」や「道具の使い方」などでは低い値となっている。（調査研究結果のポイント1）子どもの余暇時間の過ごし方が家族や家庭中心へと移行しつつあることが予想され、家族の触れ合いの

時間が増加しているのではないかと思われる。このことは一見喜ばしいことのようにも思えるが、家庭や学校以外で行われる地域活動に参加することでしか得られないこともある。子どもの世界が、家庭や学校から外へ向けて出ていくことで、子どもの社会性を高めていくことが今後ますます必要となるのではないだろうか。

多様な他者との関わりから集団生活の基本を身につけたり、地域行事への参加や地域の大人との関わりから結果的に郷土愛を育むにいたり、そのような機会が地域で減少しているとすれば残念な結果である。また、現代の家族はその形態が多様化・複雑化してきている。家族間のさまざまな格差から、必ずしも子どもたちがみんな幸せとは限らない。地域社会での子どもの受け入れは、参加さえ保障されれば、家族の影響を受けにくい、ある意味平等で公平な体験の場ともなっているのである。

## ②体験活動の内容

年齢が上がるにつれて、「動植物とのかかわり」や「友だちとの遊び」が減少していることにも注目してみたい。（調査研究結果のポイント1・3）幼児期には比較的ゆとりある生活時間の中で動植物と触れ合ったり、友だちと遊んだりする時間があったものが、小学校高学年になると管理された時間を過ごすようになるのではないかと予測できる。私たちはごく普通に「今の子どもは忙しい」という表現を使うが、お稽古事や習い事、学習塾、スポーツ少年団等によってがんじがらめになっている子どもの姿が思い浮かぶ。多忙感とはスケジュール管理をされる中で生まれるもので、単純に何かをしている時間が多いということではない。

学校の帰り道も、地域の方々の善意による登下校の見守り活動によって、「寄り道」ができなくなった。寄り道の中で、近所の犬や猫と戯れたり、鳩に餌をやったり、季節の花に目を奪われたり、そこにたくましく生きるアリを観察したり、さまざまな体験につながる。最近では、公園のベンチにランドセルを置いて遊び回っている子どもの姿を見ることはない。子どもたちを危険から守るためには致し方のない取り組みであり、地域の方々には頭の下がる思いである。しかし、この状況には同時に疑問も抱いてしまう、複雑な気持ちである。

## ③子どもの自己認識

調査結果から、年齢が上がるにつれて「体験の力」への自信が少なくなっていく傾向が読み取れる。また、「共生感」や「人間関係能力」、「文化的作法・教養」において値が相対的に低くなっている。（調査研究結果のポイント5）子どもの素養や感性だけでは育ちにくい「文化的作法・教養」や「人間関係能力」などは、同世代だけでなく異世代から学んだり、引き出してもらったり、助けてもらったり、など他者の影響力を強く受けるのである。豊かな社会を築いていくためには不可欠な要素ではないだろうか。

子どもの世界が広がり、社会を見る目が養われてくると、小学生の自己評価や自己認識が変わるのは不思議なことではない。成長の過程であり、自然な変化と受け止めることも可能であろう。しかし、そのままでは国際社会を生き抜く力を身につけることはできない。むしろ、小学校高学年に差し掛かるあたりから豊富な体験ができるよう、地域社会が環境を整える必要がある。



参考までに、「OECD生徒の学習到達度調査（PISA）」の2009年調査において、日本の傾向のひとつとして、学校における部活動やボランティア活動が盛んに行われている学校ほど読解力が高いという。子どもにとって部活動やボランティア活動は、小さな達成感を積み上げるいい場であり、仲間やチームのために頑張れる場であり、自己有用感や自己肯定の感情を育む貴重な場でもある。体験活動は学力を高めるために取り組んでいるものではないが、それらが学力と強い相関関係にあるとすれば、この結果を真摯に受け止めなければならないであろう。

#### ④保護者の体験活動

保護者の子ども時代の体験と今の子どもの体験を単純に比較することはできないが、今回の調査では小学生の頃の体験については保護者の方が全体的に多くの体験をしているという結果であった。（調査研究結果のポイント2）保護者の年齢は30歳代と40歳代で92.8%を占めており、年齢の幅は20歳ほどである。この年代は社会が大きく様変わりした時代であるので、保護者間の体験活動の格差にも注意を払っておく必要がある。

保護者の体験の傾向を見ると、特に「家事手伝い」や「道具の使い方」において、年齢を重ねるごとに増加していることがわかる。（調査研究結果のポイント3）子ども時代の家庭における役割の獲得や、地域における遊びや行事への参加によって人間関係の広がりやイメージできる。その意味では、現代の子どもの暮らし方とは異なっていたであろうことが予測される。

保護者においても、子ども時代の体験が多い人ほど、現在の「やる気」や「生きがい」が大きく、「モラル」や「人間関係能力」が高いことがわかった。（調査研究結果のポイント6・7）特に地域活動と人間関係能力との間には相関がはっきり見られている。（調査研究結果のポイント8）この結果は因果関係を示すものではないが、子ども時代に豊かな体験をしておいた方がよいことは確かなようだ。

#### ⑤その他、体験活動への期待等

体験活動への希望として「宿泊を伴う体験活動」が多くなっていた。（調査研究結果のポイント9）上でも触れたが、余暇を家族で過ごす時間が多くなっている現状で、非日常的な活動への期待が高まっていることが予想される。通学合宿など、地域の方々との触れ合いも大きい活動は、子どもにとっても保護者にとっても貴重な体験活動であるといえよう。

子どもは多様な体験の中で多くのことを学んでおり、その結果として「人間関係能力」も高まってくるということが明らかとなっている。「思いやり」や「やる気」などが高まっているのも同様である。特に他者が介在する体験や遊びでは、他者との調整が求められる。喜怒哀楽の感情も豊かになり、ルールの重要性も無意識のうちに内面化されるであろう。どこをとってもしえることは、副次的な効果が絶大であるということである。

ところで、子どもの体験活動は、居住地の違いによって差異は認められないことがわかった。（調査研究結果のポイント4）もはや自然環境の違いが体験活動の多寡をもたらすのではないことは明らかである。都市型の生活スタイルや余暇の過ごし方が地方にも浸透してしまい、地域特性が反映されにくい時代に移行してしまったことが予測される。

## <まとめ>

私たちは誰もが子どもの幸せを願っている。しかし、どのような状態となれば子どもが幸せなのか、実はわかっていない。急がば回れ、まずは私たちの幸せから考えてみよう。「私たちは幸せなのか？もし幸せなら、なぜ幸せなのか？もし不幸せなら、なぜ不幸せなのか？」「私たちの子ども時代は幸せだったのか？イエスにせよ、ノーにせよ、それはなぜなのか？」「私たちは幸せになろうと努力したか？それはなぜなのか？」ここに共通する理由が見出せれば、それが子どもの幸せを考える大きなヒントとなるであろう。

私たちは物質的な豊かさを手に入れる代償として、本来人間に備わっている力が失われている、と考えるみてはどうであろうか。子どもたちへ体験活動を提供する目的は、本来の人間性を取り戻す行為と考えられないであろうか。先人達は豊かな社会を築くために少なからず努力してきた。豊かさが山の頂であるとすれば、山になるよう石や土を積み上げた人、難所を乗り越えて頂に到達した人、その人達は豊かさの有り難さを実感している。だからこそ、今の生活に感謝ができるのである。

しかし、山頂で生まれた人たち（現代の子どもたち）にはその有り難さを実感をともなったものとはならない。それまでの先人の苦労など想像できるはずもない。感謝の心に乏しい人は決して幸せにはなれない。歴史から人間の欲望には際限がないことがわかる。見えないものへの感謝や畏敬の念がその欲望をコントロールするのだとすれば、子どもたちには苦労と喜びの両方を感じ取れる活動が必要であることは明らかだ。もう一度、子どもと体験について深く考える必要があるようだ。

本調査の結果から、改めて「学校支援ボランティア」や「放課後子ども教室」、「通学合宿」、「地域における伝承活動」等の地域のチカラがいかに重要であるかが追認できた。地域においても、子どもたちの心に「栄養をたくさん含んだ種」を蒔いていかなければならない。すぐに芽は出ないし、花は咲かないが、大人になった時に社会的責任を果たせる立派な存在となる可能性を秘めるだろう。「蒔かない種は決して芽を出さない」ことだけを忘れず、私たちは地域で考える存在にならなければならない。

# V 資 料





子どもの体験活動の実態に関するアンケート調査  
(幼稚園・小学3・6年共通)

このアンケートは、香川県の幼稚園・小学3年生・小学6年生の子どもと保護者を対象に、子ども時代の体験活動の実態等について調べるために実施するものです。

このアンケートはテストではなく、正しい答えなどはありませんので、あなたが思ったとおりに答えてください。  
答えに当てはまる数字を○で囲んでください。

最初にあなたのことについて教えてください

問1-1 あなたは何年生ですか。(1つだけ○をつけてください。)

1 幼稚園 2 小学3年 3 小学6年

問1-2 あなたの性別を教えてください。(1つだけ○をつけてください。)

1 男 2 女

問1-3 あなたの兄弟は、あなたを入れて何人ですか。(1つだけ○をつけてください。)

1 1人 2 2人 3 3人 4 4人 5 5人以上

子どもの体験活動の実態に関するアンケート調査 (保護者用)

〈保護者の方へのお願い〉

本アンケート調査は、各年齢期における子どもの体験活動に関する意識や現状を調査・分析し、今後の行政施策に反映させるための資料を得るために行うものです。つきましては、お手数をおかけしますが、下記の「回答上の留意点」をご確認の上、アンケート調査にご協力いただきましたさまようお願いいたします。  
なお、ご回答いただいた調査用紙は、**12月9日(金)までに学校へ提出**していただきますようお願いいたします。

記

【回答上の留意点】

- この用紙は保護者の方自身についてお伺いするものです。この用紙とは別に児童用のアンケート調査用紙を持ち帰ったお子さまにつきましては、保護者の方と一緒に問題を読みながら、お子さま自身が答えてください。
- すべて番号に○を1つずつつけるようになります。
- 調査結果については、全体の結果のみを公表し、個々の回答内容は公表いたしません。また、目的以外には使用しませんので、ありのままを答えてください。
- 質問内容や選択肢の内容の解釈については、個々に判断して答えてください。

【回答者について】  
最初にあなたのことについて教えてください。

1-1 この調査票を持って帰ってこられたあなたのお子さまの学年は次のどれにあたりますか。  
あてはまるもの1つに○をつけてください。

1 幼稚園 2 小学3年 3 小学6年

1-2 この調査票を持って帰ってこられたあなたのお子さまの性別を教えてください。  
あてはまるもの1つに○をつけてください。

1 男 2 女

1-3 あなた自身の性別を教えてください。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1 男 2 女

1-4 あなた自身の年代を教えてください。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1 20歳代 2 30歳代 3 40歳代 4 50歳代 5 60歳以上

### ようちえん

とい2 あなたは、いままでにつぎのようなことをどのくらいしたことがありますか。れいのように、  
(a)のかくつもんで、それぞれあてはまるばんごうに○をつけてください。(○は1つずつ)

	うみやかわでかいをとったり、さかなをつつたりしたこと	(a)しようがっこうにかようまえ (ようちえんやほいくえんなど)		
		な ん ど も あ る	す こ し あ る	ほ と ん ど な い
れい		3	②	1
(1)	うみやかわでかいをとったり、さかなをつつたりしたこと	3	2	1
(2)	うみやかわでおよいだこと	3	2	1
(3)	たいようがのぼるところやしずむところをみたこと	3	2	1
(4)	はなをそだてたこと	3	2	1
(5)	ペットなどのいきもののせわをしたこと	3	2	1
(6)	チョウやトンボ、バッタなどのこんちゆうをつかまえたこと	3	2	1
(7)	かくれんぼやかんけりをしたこと	3	2	1
(8)	ままごとやヒーローごっこをしたこと	3	2	1
(9)	ともだちとケンカをしたこと	3	2	1



	(10) きんじよのひとにしかられたこと	(a)しようがっこうにかようまえ (ようちえんやほいくえんなど)		
		な ん ど も あ る	す こ し あ る	ほ と ん ど な い
(10)	きんじよのひとにしかられたこと	3	2	1
(11)	まつりにさんかしたこと	3	2	1
(12)	ちいきのせいそうにさんかしたこと	3	2	1
(13)	かぞくのたんじよびをいわったこと	3	2	1
(14)	おはかまいりをしたこと	3	2	1
(15)	しんせき、ゆうじんのいえにひとりしゆくほくしたこと	3	2	1
(16)	ナイフやほうちようで、くだものかわをむいたり、やさいをきったこと	3	2	1
(17)	いえのなかのそうじやせいとんをてつだったこと	3	2	1
(18)	しよきをそろえたり、かたづけたりしたこと	3	2	1
(19)	スコップやシャベルをつかってすなあそびをしたこと	3	2	1
(20)	えんぴつをカッターなどでけずったこと	3	2	1
(21)	かなづちでくぎをうったこと	3	2	1

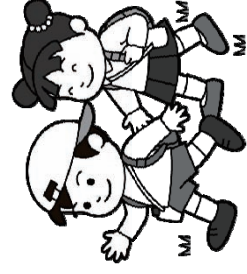
ようちえん

とい3 あなたは、つぎのことについてじぶんにどのくらいあてはまるとおもいますか。(○は1つ)

	あてはまる	あてはやまる	あてあまりはない	あてまったくはない
(1) じぶんのことがすきである	4	3	2	1
(2) がっこうがすきである	4	3	2	1
(3) いま、すんでいるまちがすきである	4	3	2	1
(4) やすみのひはしぜんのなかですごすことがすきである	4	3	2	1
(5) かなしいけんをしたひとのはなしをきくとつらくなる	4	3	2	1
(6) ともだちがとてもあわぜなたいけんをしたことをしたら、わたしまでうれしくなる	4	3	2	1
(7) なんでもさいごまでやりとげたい	4	3	2	1
(8) けいけんしたことのないことにはなんでもチャレンジしてみた	4	3	2	1
(9) わからないことはそのままにしないでしらべたい	4	3	2	1
(10) しかるべきときはちゃんとしかれるおやがよいとおもう	4	3	2	1
(11) こうつきそくなどしゃかいのルールはまもるべきだとおもう	4	3	2	1
(12) たんにをいじめているひとがいると、はらがたつ	4	3	2	1

	あてはまる	あてはやまる	あてあまりはない	あてまったくはない
(13) ひとまえてもきんちょうせずにじこしよかいができる	4	3	2	1
(14) きんじよのひとにあいさつができる	4	3	2	1
(15) はじめてあつたひととでもすぐにはなしができる	4	3	2	1
(16) じぶんにはなりたいたいしよきしよや、やってみたいしよごがある	4	3	2	1
(17) おとなになつたらしよごとをすべきだとおもう	4	3	2	1
(18) できれば、しよかいしよひとのためになるしよごとをしたいとおもう	4	3	2	1
(19) ひなまつりしよこものひ、たなばた、おつきなみのねんちしようきしよがたのしみだ	4	3	2	1
(20) はしをうまかつかうことができる	4	3	2	1
(21) にほんのむかしはなしをはなすことができる	4	3	2	1

(22) みぎのたいけんかつどうのなかで1ばんしてみたいかつどうはどれですか(1つ○をつけてください)	4	3	2	1
---	---	---	---	---



アンケートへのごきようりよく、たいへんありがたうございました

3年

問2 あなたは、今までに次のようなことをどのくらいしたことがありますか。例のように、(a)～(b)の各質問で、それぞれ当てはまる番号に○をつけて下さい。(○は1つずつ)

	(a)小学校に通う前 (幼稚園や保育園など)				(b)小学校低学年 (1～3学年)				
	何の 度も も ある	少 し あ る	ほ と ん ど な い	何 の 度 も あ る	少 し あ る	ほ と ん ど な い	何 の 度 も あ る	少 し あ る	ほ と ん ど な い
例	3	②	1	3	②	1	3	②	1
(1)	3	2	1	3	2	1	3	2	1
(2)	3	2	1	3	2	1	3	2	1
(3)	3	2	1	3	2	1	3	2	1
(4)	3	2	1	3	2	1	3	2	1
(5)	3	2	1	3	2	1	3	2	1
(6)	3	2	1	3	2	1	3	2	1
(7)	3	2	1	3	2	1	3	2	1
(8)	3	2	1	3	2	1	3	2	1
(9)	3	2	1	3	2	1	3	2	1
(10)	3	2	1	3	2	1	3	2	1
(11)	3	2	1	3	2	1	3	2	1
(12)	3	2	1	3	2	1	3	2	1



	(a)小学校に通う前 (幼稚園や保育園など)				(b)小学校低学年 (1～3学年)				
	何の 度も も ある	少 し あ る	ほ と ん ど な い	何 の 度 も あ る	少 し あ る	ほ と ん ど な い	何 の 度 も あ る	少 し あ る	ほ と ん ど な い
(13)	3	2	1	3	2	1	3	2	1
(14)	3	2	1	3	2	1	3	2	1
(15)	3	2	1	3	2	1	3	2	1
(16)	3	2	1	3	2	1	3	2	1
(17)	3	2	1	3	2	1	3	2	1
(18)	3	2	1	3	2	1	3	2	1
(19)	3	2	1	3	2	1	3	2	1
(20)	3	2	1	3	2	1	3	2	1
(21)	3	2	1	3	2	1	3	2	1
(22)	3	2	1	3	2	1	3	2	1
(23)	3	2	1	3	2	1	3	2	1
(24)	3	2	1	3	2	1	3	2	1
(25)	3	2	1	3	2	1	3	2	1
(26)	3	2	1	3	2	1	3	2	1
(27)	3	2	1	3	2	1	3	2	1



問3 あなたは、次のことについて自分にどのくらい当てはまると思いますか。(○は1つ)

	あてはまる	ややあてはまる	あてはまらない	あてはまらない	まったくあてはまらない
(1) 自分のことが好きである	4	3	2	1	1
(2) 自分がかぞくを大切にできる人間だと思う	4	3	2	1	1
(3) 学校が好きである	4	3	2	1	1
(4) 今、すんでいる町が好きである	4	3	2	1	1
(5) 休みの日はほしげの中で過ごすことが好きである	4	3	2	1	1
(6) どうぶつやえんややすいぞくかんなどに行くのが好きである	4	3	2	1	1
(7) かなしいいけんをした人の話をきくとつらくなる	4	3	2	1	1
(8) 友だちがとも幸せな体けんをしたことを知ったら、私までうれしくなる	4	3	2	1	1
(9) もっとふかしく學んでみたいことがある	4	3	2	1	1
(10) なんでもさいごまでやりとげたい	4	3	2	1	1
(11) けいけんしたことはないことには何でもチャレンジしてみたい	4	3	2	1	1
(12) 分からないことはそのままにしないで調べたい	4	3	2	1	1
(13) しかるべき時はちゃんとしかれる親がよいと思う	4	3	2	1	1
(14) 交通きそくなど社企のルールは守るべきだと思う	4	3	2	1	1
(15) 電車やバスにのつたとき、お年寄りやからだの不自由な人にはせきをゆずらうと思う	4	3	2	1	1
(16) 他人をいじめている人がいると、はらが立つ	4	3	2	1	1

	あてはまる	あてはまる	あてはまらない	あてはまらない	まったくあてはまらない
(17) 人前でもきんちようせず自己しようかいができる	4	3	2	1	1
(18) 近所の人にあいさつができる	4	3	2	1	1
(19) はじめて会った人とでもすぐに話ができる	4	3	2	1	1
(20) 友だちにそうざんされることがよくある	4	3	2	1	1
(21) 自分にはなりたしいしょぎようや、やってみたい仕事がある	4	3	2	1	1
(22) 大人になつたら仕事をすべきだと思う	4	3	2	1	1
(23) できれば、社企や人のためになる仕事をしたいと思う	4	3	2	1	1
(24) お金が十分にあれば、できれば仕事はやりたくないと思う	4	3	2	1	1
(25) 自よや年上の人と話すときはいていねいなことばを使うことができる	4	3	2	1	1
(26) ひなまつりや子どもの日、七夕、お月買などの年中行事が楽しみだ	4	3	2	1	1
(27) はしを上しく使うことができる	4	3	2	1	1
(28) 日本のむかし話を話ることができる	4	3	2	1	1



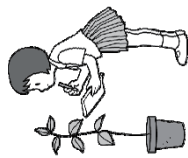
(親子の体けん活動) (親子工作室など)	(泊を伴う体けん活動) (キャンプなど)	(自然体けん活動) (里山たんけんなど)	(いきの人の交流活動) (ふるさと祭りなど)
-------------------------	-------------------------	-------------------------	---------------------------

(29) 右の体けん活動の中で1番してみたい活動はどれですか(1つ○をつけてください)

アンケートへのご協力、たいへんありがとうございました

6年

問2 あなたは、今までに次のようなことをどのくらいしたことありますか。例のように、(a)～(c)の各質問で、それぞれ当てはまる番号に○をつけて下さい。(○は1つずつ)



例	(a)小学校に通う前 (幼稚園や保育園など)		(b)小学校低学年 (1～3学年)		(c)小学校高学年 (4～6学年)		
	何の 度も も ある	少 し あ る	何の 度も も ある	少 し あ る	何の 度も も ある	少 し あ る	ほ と ん ど な い
(1) 海や川で貝を採ったり、魚を釣ったりしたこと	3	②	3	②	3	2	1
(2) 海や川で泳いだこと	3	2	3	2	3	2	1
(3) 太陽が昇るところや沈むところを見たりしたこと	3	2	3	2	3	2	1
(4) 夜空いっぱい輝く星をゆっくり見たりしたこと	3	2	3	2	3	2	1
(5) 湧き水や川の水を飲んだこと	3	2	3	2	3	2	1
(6) 米や野菜などを栽培したこと	3	2	3	2	3	2	1
(7) 花を育てたこと	3	2	3	2	3	2	1
(8) ペットなどの生き物の世話をしたこと	3	2	3	2	3	2	1
(9) チョウやトンボ、バッタなどの昆虫をつかまえたこと	3	2	3	2	3	2	1
(10) 野鳥を見たり、鳴く声を聞いたこと	3	2	3	2	3	2	1
(11) かくれんぼや缶けりをしたこと	3	2	3	2	3	2	1
(12) ままごとやヒーローごっこをしたこと	3	2	3	2	3	2	1
(13) すもうやおしくらまんじゅうをしたこと	3	2	3	2	3	2	1
(14) 友人とケンカをしたこと	3	2	3	2	3	2	1
(15) 弱い者いじめやケンカを注意したり、やめさせたこと	3	2	3	2	3	2	1

(16) 近所の小さい子どもと遊んであげたこと	(a)小学校に通う前 (幼稚園や保育園など)		(b)小学校低学年 (1～3学年)		(c)小学校高学年 (4～6学年)		
	何の 度も も ある	少 し あ る	何の 度も も ある	少 し あ る	何の 度も も ある	少 し あ る	ほ と ん ど な い
(17) 近所の大人に叱られたこと	3	2	3	2	3	2	1
(18) バスや電車で体の不自由な人やお年寄りに席をゆずったこと	3	2	3	2	3	2	1
(19) 祭りに参加したこと	3	2	3	2	3	2	1
(20) 地域の清掃に参加したこと	3	2	3	2	3	2	1
(21) 家族の誕生日を祝ったこと	3	2	3	2	3	2	1
(22) お墓参りをしたこと	3	2	3	2	3	2	1
(23) 家族の病気の看病をしたこと	3	2	3	2	3	2	1
(24) 親戚、友人の家にひとりで宿泊したこと	3	2	3	2	3	2	1
(25) 家族で家の大掃除をしたこと	3	2	3	2	3	2	1
(26) ナイフや包丁で、果物の皮をむいたり、野菜を切ったこと	3	2	3	2	3	2	1
(27) 冴の中の掃除や整頓を手伝ったこと	3	2	3	2	3	2	1
(28) ゴミ袋を出したり、捨てたこと	3	2	3	2	3	2	1
(29) 洗濯をしたり干したりしたこと	3	2	3	2	3	2	1
(30) 食器をそろえたり、片付けたりしたこと	3	2	3	2	3	2	1
(31) スコップやシャベルを使って砂遊びをしたこと	3	2	3	2	3	2	1
(32) えんぴつをカッターなどでけずったこと	3	2	3	2	3	2	1
(33) かなづちでききょうをつけたこと	3	2	3	2	3	2	1

問3 あなたは、次のことについて自分にどのくらい当てはまると思いますか。(○は1つ)

	あてはまる	あてやまる	あてはまらない	あてはまらない
(1) 自分のことが好きである	4	3	2	1
(2) 家族を大切にできる人間だと思う	4	3	2	1
(3) 学校が好きである	4	3	2	1
(4) 今、住んでいる町が好きである	4	3	2	1
(5) 日本が好きである	4	3	2	1
(6) 休みの日は自然の中で過ごすことが好きである	4	3	2	1
(7) 動物園や水族館などに行くのが好きである	4	3	2	1
(8) 悲しい体験をした人の話を聞くにつらくなる	4	3	2	1
(9) 友達があつても幸せな体験をしたことを知ったら、私までうれしくなる	4	3	2	1
(10) 人から無視されている人のことが心配になる	4	3	2	1
(11) もっと深く学んでみたいことがある	4	3	2	1
(12) なんでも最後までやり遂げたい	4	3	2	1
(13) 経験したことのないことには何でもチャレンジしてみたい	4	3	2	1
(14) 分からないことはそのままにしないで調べたい	4	3	2	1
(15) いろいろな国に行ってみたい	4	3	2	1
(16) 叱るべき時はちゃんと叱れる親が良いと思う	4	3	2	1
(17) 交通規則など社会のルールは守るべきだと思う	4	3	2	1
(18) 電車やバスの中で化粧や整髪をしても良いと思う	4	3	2	1
(19) 電車やバスに乗ったとき、お年寄りや身体の不自由な人には席をゆずろうと思う	4	3	2	1
(20) 他人をいじめている人がいると、腹が立つ	4	3	2	1

	あてはまる	あてやまる	あてはまらない	あてはまらない
(21) 人前でも緊張せずに自己紹介ができる	4	3	2	1
(22) けんかをした友達を仲直りさせることができる	4	3	2	1
(23) 近所の人に挨拶ができる	4	3	2	1
(24) 初めて会った人とでもすぐに話ができる	4	3	2	1
(25) 友達に相談されることがよくある	4	3	2	1
(26) 自分にはなりたい職業や、やってみたい仕事がある	4	3	2	1
(27) 大人になったら仕事をすべきだと思う	4	3	2	1
(28) できれば、社会や人のためになる仕事をしたいと思う	4	3	2	1
(29) お金が十分であれば、できれば仕事はやりたくないと思う	4	3	2	1
(30) 今が楽しければ、それでいいと思う	4	3	2	1
(31) お盆やお彼岸にはお墓参りに行くべきだと思う	4	3	2	1
(32) 自上が年上の人と話すときは丁寧な言葉を使うことができる	4	3	2	1
(33) ひな祭りや子どもの日、七夕、お月見などの年中行事が楽しみだ	4	3	2	1
(34) はしを上手く使うことができる	4	3	2	1
(35) 日本の普通話を話すことができる	4	3	2	1



(観察) 親子工作教室など	宿泊を伴う体験活動 (キャンプなど)	地域の人の交流活動 (ふるさと祭りなど)	自然体験活動 (里山探検など)
4	3	2	1

(36) 右の体験活動の中で1番体験してみたい活動はどれですか(1つ○をつけてください)

アンケートへのご協力、たいへんありがとうございます

**保護者**

問2 あなたは、今までに次のようなことをどのくらいしたことがありますか。例のように、(a)～(c)の各質問で、それぞれ当てはまる番号に○をつけて下さい。(○は1つずつ)

例	(a)小学校に通う前 (幼稚園や保育園など)		(b)小学校低学年 (1～3学年)		(c)小学校高学年 (4～6学年)	
	何の 度も もあ る	少 しあ る	何の 度も もあ る	少 しあ る	何の 度も もあ る	少 しあ る
海や川で貝を採ったり、魚を釣ったりしたこと	3	②	3	②	1	③
(1) 海や川で貝を採ったり、魚を釣ったりしたこと	3	2	3	2	1	3
(2) 海や川で泳いだこと	3	2	3	2	1	3
(3) 太陽が昇るところや沈むところを見たこと	3	2	3	2	1	3
(4) 夜空いっぱい輝く星をゆっくり見ること	3	2	3	2	1	3
(5) 湧き水や川の氷を飲んだこと	3	2	3	2	1	3
(6) 米や野菜などを栽培したこと	3	2	3	2	1	3
(7) 花を育てたこと	3	2	3	2	1	3
(8) ペットなどの生き物の世話をしたこと	3	2	3	2	1	3
(9) チョウやトンボ、バッタなどの昆虫をつかまえたこと	3	2	3	2	1	3
(10) 野鳥を飼ったり、鳴く声を聞いたこと	3	2	3	2	1	3
(11) かぐれんぼや缶けりをしたこと	3	2	3	2	1	3
(12) ままごとやヒーローごっこをしたこと	3	2	3	2	1	3
(13) すもうやおしくらまんじゅうをしたこと	3	2	3	2	1	3
(14) 友人とケンカをしたこと	3	2	3	2	1	3
(15) 弱い弱いじめやケンカを注意したり、やめさせたこと	3	2	3	2	1	3

	(a)小学校に通う前 (幼稚園や保育園など)		(b)小学校低学年 (1～3学年)		(c)小学校高学年 (4～6学年)	
	何の 度も もあ る	少 しあ る	何の 度も もあ る	少 しあ る	何の 度も もあ る	少 しあ る
(16) 近所の小さい子どもと遊んであげたこと	3	2	3	2	3	2
(17) 近所の人に叱られたこと	3	2	3	2	3	2
(18) バスや電車で体の不自由な人やお年寄りに席をゆずったこと	3	2	3	2	3	2
(19) 祭りに参加したこと	3	2	3	2	3	2
(20) 地域の清掃に参加したこと	3	2	3	2	3	2
(21) 家族の誕生日を祝ったこと	3	2	3	2	3	2
(22) お墓参りをしたこと	3	2	3	2	3	2
(23) 家族の病気の看護をしたこと	3	2	3	2	3	2
(24) 親戚、友人の家にひとりで宿泊したこと	3	2	3	2	3	2
(25) 家族で家の大掃除をしたこと	3	2	3	2	3	2
(26) ナイフや包丁で、果物の皮をむいたり、野菜を切ったこと	3	2	3	2	3	2
(27) 家の中の掃除や整理を手伝ったこと	3	2	3	2	3	2
(28) ゴミ袋を出したり、捨てたこと	3	2	3	2	3	2
(29) 洗濯をしたり干したりしたこと	3	2	3	2	3	2
(30) 食器をそろえたり、片付けたりしたこと	3	2	3	2	3	2
(31) スコップやシャベルを使って砂遊びをしたこと	3	2	3	2	3	2
(32) えんぴつをカッターなどで切ったこと	3	2	3	2	3	2
(33) かなづちでくぎをうったこと	3	2	3	2	3	2

保護者

問3 あなたは、次のことについて今の自分にどのくらい当てはまると感じますか。(○は1つ)

	あてはまる	あてはまる	あてはまる	あてはまる
(1) 自分のことが好きである	4	3	2	1
(2) 家族を大切にできる人間だと思う	4	3	2	1
(3) 学校が好きである	4	3	2	1
(4) 今、住んでいる町が好きである	4	3	2	1
(5) 日本が好きである	4	3	2	1
(6) 休みの日は自然の中で過ごすことが好きである	4	3	2	1
(7) 動物園や水族館などに行くのが好きである	4	3	2	1
(8) 楽しい体験をした人の話を聞くとつらくなる	4	3	2	1
(9) 友達がとても幸せな体験をしたことを知ったら、私までうれしくなる	4	3	2	1
(10) 人から無視されている人のことが心配になる	4	3	2	1
(11) もっと深く學んでみたいことがある	4	3	2	1
(12) なんでも最後までやり遂げたい	4	3	2	1
(13) 経験したことのないことには何でもチャレンジしてみたい	4	3	2	1
(14) 分からないことはそのままにしないで調べたい	4	3	2	1
(15) いろいろな国に行ってみたい	4	3	2	1
(16) 叱るべき時はちゃんと叱れる親が良いと思う	4	3	2	1
(17) 交通機関など社会のルールは守るべきだと思う	4	3	2	1
(18) 電車やバスの中で化粧や整髪しても良いと思う	4	3	2	1
(19) 電車やバスに乗ったとき、お年寄りや身体の不自由な人には席をゆずろうと思う	4	3	2	1
(20) 他人をいじめている人がいると、腹が立つ	4	3	2	1

	あてはまる	あてはまる	あてはまる	あてはまる
(21) 人前でも緊張せずに自己紹介ができる	4	3	2	1
(22) けんかをした友達を仲直りさせることができる	4	3	2	1
(23) 近所の人に挨拶ができる	4	3	2	1
(24) 初めて会った人とでもすぐに話ができる	4	3	2	1
(25) 友達に相談されることがよくある	4	3	2	1
(26) 自分にはなりたいたい職業や、やってみたい仕事がある	4	3	2	1
(27) 大人になったら仕事をすべきだと思う	4	3	2	1
(28) できれば、会社や人のためになる仕事をしたいと思う	4	3	2	1
(29) お金が十分にあれば、できれば仕事はやりたくはないと思う	4	3	2	1
(30) 今が楽しければ、それでいいと思う	4	3	2	1
(31) お盆やお彼岸にはお墓参りに行くべきだと思う	4	3	2	1
(32) 自上が年上の人と話すときは丁寧な言葉を使うことができる	4	3	2	1
(33) ひな祭りや子どもの日、七夕、お月見などの年中行事が楽しみだ	4	3	2	1
(34) はしを上手く使うことができる	4	3	2	1
(35) 日本の普通話を話することができる	4	3	2	1

	(親) 親子の体験活動 (親子工作教室など)	宿泊を伴う体験活動 (キャンプなど)	地域の人の交流活動 (ふるさと祭りなど)	自然体験活動 (里山探検など)
(36) 右の体験活動の中で、子どもの健やかな成長のために、あなたの子どもが年齢期において、1番体験させてみたい活動はどれですか(1つ○をつけてください)	4	3	2	1

アンケートへのご協力、たいへんありがとうございました



**地域の底チカラ体験モデル事業**

**各年齢期における子どもの体験活動の実態調査報告書**

平成24年4月

香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課

〒760-8581

香川県高松市天神前6-1

TEL 087-832-3773

FAX 087-831-1912

